

令和2年3月18日

我孫子市教育委員会教育長 様

我孫子市立布佐中学校  
校長 小林 浩之

## 布佐中学校 平成31年度学校評価報告



成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・布佐中学校区小中3校の連携による小中一貫教育推進のための取り組みを実施し、小小、小中、地域連携を推進することができた。 (6年生登校等の小中連携、小中職員の合同研修や授業相互参観、防災訓練などの地域との連携強化等)</li><li>・生徒の学力向上を目指し、校内研究テーマに即した授業実践を推進するとともに、新学習指導要領移行に向けた校内研究テーマの見直しや学習指導の在り方について、生徒の主体的な取り組みや学習習慣の確立の観点から取組みの見直し、改善案について取り組むことができた。</li><li>・働き方改革やねらいの見直しの観点から次年度学校行事や部活動の取組み等について見直し、改善案を立案することができた。</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の学力向上のための授業改善や家庭や地域との連携・協力などの取り組みは不十分であり、生徒の主体的な学習に対する取り組みや学習習慣の確立、家庭学習の取り組みについての向上、改善のための取り組みが不十分で目標達成には至っていない。</li><li>・小中一貫教育の推進については、小中、地域連携の推進の観点で取り組みを教化、継続していく。小中一貫教育運営協議会については、コミュニティースクールへの準備として次年度運営していく方向に変えていく必要がある。</li><li>・引き続き地域とともにある学校づくりをめざして、生徒の地域貢献の意識の育成などを踏まえた「ふさカリキュラム」や「ふさタイム」などの総合的な学習の時間の充実や地域行事への参加や「地域ルーム」などの学校施設の地域開放についてさらに工夫、充実していく必要がある。</li></ul>

# 令和元年度 布佐中学校 学校評価 教職員による自己評価集計

- 各評価の観点について実践を振り返り、評価欄の数字に○をつけてください。  
 4: 十分重点として認識し、達成に向けた努力をしている      3: 重点目標として認識し、実践している  
 2: 重点としての意識は低く、個別的な努力をした。      1: ほとんど認識がなかった。
- 各項目の「自己評価・提案」の欄には領域に対する自己評価、学校改善(3学期)に向けた提案を書いてください。

※ 自己の取り組みに対する反省、評価でなく、2学期における布佐中学校の教育活動全体をみてそれぞれの項目について 自分としてどう評価するのか、という観点から記入してください。

## 学校教育目標

『自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成』 「自主性」「共生」

## 令和元年度の重点

- よりよい生活・学習のあり方を求め、自ら考え、的確に判断しながら主体的に行動(表現)できる生徒を育てる。
  - 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。
  - 家庭・地域と連携し、三者一体・総ぐるみで生徒を育てるとともに、(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。
- 今年度学校経営方針「子どもの自主性と共生的な態度を引き出す教育課程の創造」

### 【5つの柱】

- 「みんなで創る地域の小中一貫・ふさ学園」に向けて・・・社会(地域)に開かれた教育課程の理念に基づいて家庭・地域との連携を図りながら協働して子どもを育てる。
- 研究・研修の充実・・・自ら課題を見つけ、思考し解決して行動化(表現)できる力を養う。読書活動の推進。「希望の登校、満足の下校に向けて」・・・円滑な人間関係の構築と生徒の主体性を伸ばす諸活動の経営。「特別の教科・道徳」の確実な実践。校内適応指導教室(学習支援室)の設置と有効活用。
- 小中一貫教育の推進・・・育てたい子ども像を共有し、9年間を見通した系統的・計画的な指導を行うためのカリキュラム開発や中1ギャップの軽減。小中一貫運営協議会を機能させ、次代のコミュニティスクールをめざしていく。
- 学力向上に向けて・・・活動と協同のある授業の推進。家庭学習(学習サイクル)充実のための小中一貫プロジェクト・地

## めざす生徒像

①	よりよい生活・学習のあり方を求め、自ら考え的確に判断しながら主体的に行動(表現)できる生徒。
②	互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒。
③	地域を愛し、地域と協働しながら、よりよい社会の形成に向けて参画できる生徒。

## めざす学校像

①	学校を核として、家庭・地域と協働しながら、「みんなで創る地域の小中一貫・ふさ学園」
②	先生も生徒も通うことが楽しく、日々を充実した気持ちで過ごせる学校。◎希望の登校(出勤)・満足の下校(退勤)
③	地域コミュニティの中核としての役割を果たせる学校。

## ○今年度の重点について

重点	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価				2学期末	1学期末	平均
		上段=評価	下段=人数					
1	主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。	4	3	2	1	95%	88%	3.1
		2	17	1	0			

## 成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>現状から自ら考え、主体的になるとまだまだ課題の残る生徒もいるが、研修を重ね教員側も日々そのような生徒を育てる手立てを学んでいる</li> <li>各先生方が授業改善を行い、また生活指導を日々行っている。なかなか生徒に伝わっていかない部分もあるが、粘り強く指導していければと思う。</li> <li>生徒自身が企画・運営してもその情報を伝えることができないことが多かった。全体としてもう少し職員がフォローしておく必要がある。</li> <li>生活については子どもが主体的に行動しているが、学習についてはまだ改善が必要である。</li> <li>適確な判断という点では、まだ厳しいと思うが、自分たちで行動しようという生徒は育っていると感じる。</li> <li>様々な工夫をして授業を行っている先生が多いと思う。委員会などでも生徒が主体的に取り組む場面も多かった。</li> <li>伸びている子もいる、苦戦している子のサポートをもっと意識する。</li> </ul>
--

2	互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。	4	3	2	1	2学期末	1学期末	3.2
		6	12	2	0	90%	94%	

<b>成果と課題</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記のような様々な努力はしているが、心ない発言などはまだまだあるように思う。</li> <li>・ 全体的に互いに理解し尊重することができる生徒が多くなったと感じる。</li> <li>・ 誰かのために貢献しようとする生徒が増えていると感じる。</li> <li>・ 布佐中生はキャバが広いと思う。</li> <li>・ グループ隊形であることで他に依存している生徒が多数いるように感じる。これは学び合いとは言い難い。</li> <li>・ グループ活動を行い、自ずと協力をする環境を作っているが生徒たちがそれに応えて動いているかという点と何ともいえない</li> </ul>								

3	家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。	4	3	2	1	2学期末	1学期末	3.2
		6	12	2	0	90%	88%	

<b>成果と課題</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に対しても開かれた学校なので布佐タイムやボランティアさんなど、三者一体の形はできている。</li> <li>・ 地域の方にはいつも世話になっている。</li> <li>・ 三者合同の研修の内容や集会在全体的に周知されていないことがある。生徒を育てるためには一貫した活動が必要。</li> <li>・ 1学年に関して言えば、家庭と学校の連携が今一つうまくいっていないように思う。</li> <li>・ 地域の力は大きいと思う。</li> <li>・ 行えているが、誰のためにやっているかをしっかり考えなければならない。</li> </ul>								

領域		学力向上のための校内研究の推進と授業改善									
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率				
		4	3	2	1						
1	グループを活用して「活動と協同」のある授業を実践している。	9	10	0	0	100%	81%	3.5			
2	「活動と協同」のある授業を実践するために、学習課題のあり方や教員の話、ファシリテーターとしての役割に留意している。	5	13	1	0	95%	100%	3.2			
3	授業の初めに学習課題(問題)を提示し、終末にまとめや振り返りの時間をとっている。	7	11	1	0	95%	94%	3.3			
4	1時間の授業の中で、「深める」活動(思考をする)を取り入れている。	0	18	1	0	95%	81%	2.9			
5	同一教科による学年間をつないだ言語活動の充実に向けた取り組みを行っている。(書く、プレゼンテーションをする、学び合い など)	3	13	3	0	84%	69%	3.0			
6	読書・読書活動の充実のための取り組みと授業への図書の利用を推進している。	1	7	9	2	42%	44%	2.3			
7	授業の中で学校図書を活用するための工夫を行っている。	2	6	8	3	42%	38%	2.2			
8	家庭学習の習慣化・充実を図り、授業と連動させる工夫を行っている。	3	10	6	0	68%	63%	2.8			

<b>成果と課題</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8. 家庭学習の習慣化は宿題を与えるだけではむずかしく、細かい点検と家庭の協力が必要。</li> <li>・ 2. 班隊形であることで「協働と活動」はできている面があるが、学年によっては集中できないなど、もう1クッション入れる必要がある。</li> <li>・ 8. 簡単な学習理解確認テストを定期外に実施している。それによって家庭学習に取り組む子どもが増えた。</li> <li>・ 7. 授業時数の関係や本の種類等の問題もあり、むずかしい面もある。</li> <li>・ 6. 図書室利用を推進するのであれば、Basicを読書にすると良いと思う。朝も落ち着いて授業や朝の会に臨めると思う。</li> <li>・ 6. 朝読書を積極的に取り入れ、活字に触れる大切さを学ばせたいです。</li> <li>・ 8. 宿題・課題の量をどれ程にするか、話し合う機会があれば、生徒も余裕を持ってできる量になると思う。</li> <li>・ 8. 宿題で手一杯の生徒が多く主体的に学習をしている生徒は少ないように感じる。</li> </ul>										

領域		特別活動・道徳						
NO	(教職員による自己評価) 評 価 の 観 点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率	
		4	3	2	1			
9	特別活動(学校行事、生徒会、学級会、学級活動)での話し合い活動を進めている。	7	13	0	0	100%	88%	3.5
10	課題発見、解決型の総合的な学習を進めている。	4	14	1	0	95%	81%	3.2
11	一人一人のよさを認め、人間関係形成のできる生徒指導を進めている。	4	16	0	0	100%	100%	3.4
12	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進している。	1	11	7	1	60%	75%	2.7
13	生徒の自主的な活動を基盤とした地域貢献活動を推進している。	3	8	9	0	55%	69%	2.8
14	一人一人が所属感・存在感をもてるような学級経営の工夫により、生徒が充実した生活を送っている。	1	16	3	0	85%	80%	3.1
15	学級活動等の活性化により、生徒の主体性の育成を目指している。	5	14	1	0	95%	94%	3.4
16	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をしている。	4	16	0	0	100%	94%	3.4
17	道徳で培った道徳的判断力や行動力を、生徒の生活や他の教科の中で生かそうとしている。	2	12	5	0	74%	75%	2.8
18	特別の教科 道徳の実施に向けて取り組みを進めている。	10	10	0	0	100%	75%	3.5

### 成果と課題

- ・ 12. 自己肯定感の低い生徒が多いので、夏休みのような清掃ボランティアや多くのボランティアの機会を与えた方がよい。
- ・ 18. 全校体制で道徳を進めていることもあり、全体的には意識が高い。ワークシートを使う授業でパターン化しているところをもう少し形式の工夫をしたい。
- ・ 14. QU検査の結果を踏まえ今後改善が必要。
- ・ 9. 子どもたちが先輩から受け継ぎ、良い伝統がある。(委員会活動)
- ・ 自分自身も含めて道徳の授業を副担任の先生ももっとやるべき。

領域		生徒指導・教育相談・長欠対策						
NO	(教職員による自己評価) 評 価 の 観 点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率	
		4	3	2	1			
19	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職や関係職員への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めている。	10	9	1	0	95%	100%	3.5
20	生徒に自律的な規範意識を育てよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めている。	5	15	0	0	100%	94%	3.3
21	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」が生かされている。	8	12	0	0	100%	100%	3.4
22	長欠・教育相談に関する指導は、必要に応じ、他校種、外部機関と連携するなどチームワークで対応しようとしている。	9	10	1	0	95%	94%	3.4
23	生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、みずからの言動に責任を負うことのできる生徒を育成するための指導を行っている。	3	16	1	0	95%	82%	3.1
24	社会の一員としての意識(公平・公正・勤労・モラル等)を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	6	11	3	0	85%	94%	3.2
25	保護者と連携して、粘り強く生活習慣を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	5	13	2	0	90%	71%	3.2
26	いじめ根絶に向けて、全職員でいじめ防止基本方針を確認し、全職員で連携して取り組んでいる。	10	9	1	0	95%	94%	3.5

## 成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>22. 長欠生徒が増えたように感じるが、生徒の情報について連絡がしっかりとれてきたように感じる。次にどんな支援が必要であるか考えて行動するともっと改善するのではないかと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携がむずかしいことが多く、理解が得られないことがある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>25. 生徒のみならず、保護者対応もしっかりやっていると、その後の人間関係に影響がでる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>26. いじめについての集会や全校でのいじめ防止運動があれば生徒の意識も高まると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>19. 22. 25. 全職員、保護者、管理職が連携をとって対応していると思う。だから問題が大きくならずに解決に向かうことが出来ているのだと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>24. もっと挨拶や身だしなみなど基本的なことを全員が声をかけて意識させることが求められる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>25. 学校への関心が低いように感じる。学級通信、学年だよりを発行していてもあまり変わらないので次の策を考えていこうと思います。</li> </ul>

領域		健康管理・安全管理						
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率	
		4	3	2	1			
27	生徒に体力・健康の自己管理ができるよう、治療のすすめ、生活習慣などの指導を行った。	9	10	1	0	95%	94%	3.4
28	災害、危険防止の観点から危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。	9	10	1	0	95%	88%	3.4
29	学校保健計画・学校安全計画を確認し、計画的に指導している。	8	9	2	1	85%	94%	3.4
30	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組もうとしている。	1	14	5	0	75%	47%	2.8
<b>成果と課題</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>30. PTAがいつ来て何をしているのか不透明。事前に分かると良いと思います。</li> <li>28. 特に自然災害における対応がこれからは重要。</li> </ul>								

領域		特別支援教育						
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率	
		4	3	2	1			
31	特別な支援を必要とする生徒に対して、学級経営や授業の中で配慮を行っている。	8	12	0	0	100%	100%	3.4
32	ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業実践に努めている。	6	14	0	0	100%	81%	3.3
33	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別の教育支援計画を適切に作成しようとしている。	11	9	0	0	100%	73%	3.6
34	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉(児相など)関係機関との連携を図ろうとしている。	7	13	0	0	100%	87%	3.4
35	特別支援学級の生徒との交流学習を図っている。	12	7	0	0	100%	94%	3.6
<b>成果と課題</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>31. 多くの生徒が実はもっと支援が必要な状況なので保護者に認めて頂くことや個に応じた支援を細かく行う必要がある。</li> <li>35. 週の中にある学級活動などの予定も特別支援学級の担任に伝えることができ、連携がとれていた。</li> <li>34. 学校での指導では、むずかしい生徒がいるので外部との連携は必要であり、職員の研修も必要だと思う。</li> <li>31. 32. 合理的配慮については、通常学級の授業でも共通理解をしていった方が良いと思う。特別支援学級での学習の充実、カリキュラムを作っていく必要がある。(その場その場の授業ではなく) 特支の担任の特支の授業のコマをもっと増やした方が良い。</li> </ul>								

領域		研究と修養						
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率	
		4	3	2	1			
36	学年・教科を越え、教員としての力量形成のための研修を進めている。	8	11	1	0	95%	100%	3.4
37	初任者、若手教員、栄養職員、養護教諭等の校内職員の研修に、積極的に関わり、人材育成に寄与している。	6	12	2	0	90%	76%	3.2
38	郷土の偉人や業績、地域の歴史を学ぶカリキュラムに基づき授業を実施し、小中(高)をつなぐ教育を進めようとしている。	4	10	5	1	70%	71%	2.8
39	小中一貫教育の推進に向けて、小学校と連携し、小中一貫の考え方、方針等の共有化を図り、9年間を見通した教育を系統的・計画的に行おうとしている。	7	11	1	1	90%	71%	3.2

#### 成果と課題

- ・ 39. 小中の先生が研修の日に来るのか、来た際の準備等の役割が分かりづらいので、事前に打ち合わせが必要である。
- ・ 37. 若手教員の育成は急務であり、常識や対保護者と生徒への対応の仕方もしっかりと学んだほうが良いと思う。
- ・ 栄養教諭初任者としての授業のために、校長先生をはじめ、多くの先生方にいろいろな形で関わっていただき、本当に感謝している。

領域		組織・学校情報の広報						
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率	
		4	3	2	1			
40	学校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域と連携を図り、教育活動の理解や参画を得るよう努めている。	7	12	1	0	95%	88%	3.3
41	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図っている。	9	10	1	0	95%	100%	3.4
42	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行っている。	8	12	0	0	100%	94%	3.4
43	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行されている。	4	13	1	2	85%	65%	2.9
44	HP・学校便り・学年だより・学級だより・保健だよりや給食だより、相談室だよりなど学校広報が進んでいる。	11	8	1	0	95%	94%	3.5

#### 成果と課題

- ・ 42. 学級の課題は日々変化することがあるため、担任・副担任が柔軟に動き、細かな指導が必要である。
- ・ 43. 予算が明らかに不足している。
- ・ 43. 昨年のパフォーマンスチャージ事案を受け節約に努めているが、もう少し予算がないと悲しい。市の教育予算を増やしてほしい。
- ・ 41. チーム布佐で動くことが大切。

達成率の変化から 取り組みの振り返りと次年度立案のために分かること 課題は何かを考えましょう!

	設問	項目	1学期 達成率		2学期 達成率	平均点
重点	①	主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。	88%	↑	95%	3.1
	②	互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。	94%	=	90%	3.2
	③	家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。	88%	↑	90%	3.2
校内研究の推進と授業改善	1	グループを活用して「活動と協同」のある授業を実践している。	81%	↑	100%	3.5
	2	「活動と協同」のある授業を実践するために、学習課題のあり方や教員の話、ファシリテーターとしての役割に留意している。	100%	↓	95%	3.2
	3	授業の初めに学習課題(問題)を提示し、終末にまとめや振り返りの時間をとっている。	94%	=	95%	3.3
	4	1時間の授業の中で、「深める」活動(思考をする)を取り入れている。	81%	↑	95%	2.9
	5	同一教科による学年間をつないだ言語活動の充実に向けた取り組みを行っている。(書く、プレゼンテーションをする、学び合い など)	69%	↑	84%	3.0
	6	読書・読書活動の充実のための取り組みと授業への図書の利用を推進している。	44%	=	42%	2.3
	7	授業の中で学校図書を活用するための工夫を行っている。	38%	=	42%	2.2
	8	家庭学習の習慣化・充実を図り、授業と連動させる工夫を行っている。	63%	↑	68%	2.8
特別活動・道徳	9	特別活動(学校行事、生徒会、学級会、学級活動)での話し合い活動を進めている。	88%	↑	100%	3.5
	10	課題発見、解決型の総合的な学習を進めている。	81%	↑	95%	3.2
	11	一人一人のよさを認め、人間関係形成のできる生徒指導を進めている。	100%	=	100%	3.4
	12	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進している。	75%	↓	60%	2.7
	13	生徒の自主的な活動を基盤とした地域貢献活動を推進している。	69%	↓	55%	2.8
	14	一人一人が所属感・存在感をもてるような学級経営の工夫により、生徒が充実した生活を送っている。	80%	↑	85%	3.1
	15	学級活動等の活性化により、生徒の主体性の育成を目指している。	94%	=	95%	3.4
	16	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をしている。	94%	↑	100%	3.4
	17	道徳で培った道徳的判断力や行動力を、生徒の生活や他の教科の中で生かそうとしている。	75%	=	74%	2.8
	18	特別の教科 道徳の実施に向けて取り組みを進めている。	75%	↑	100%	3.5
生徒指導・教育相談・長欠対策	19	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職や関係職員への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めている。	100%	↓	95%	3.5
	20	生徒に自律的な規範意識を育てよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めている。	94%	↑	100%	3.3
	21	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」が生かされている。	100%	=	100%	3.4
	22	長欠・教育相談に関する指導は、必要に応じ、他校種、外部機関と連携するなどチームワークで対応しようとしている。	94%	=	95%	3.4
	23	生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、みずからの言動に責任を負うことのできる生徒を育成するための指導を行っている。	82%	↑	95%	3.1
	24	社会の一員としての意識(公平・公正・勤労・モラル等)を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	94%	↓	85%	3.2
	25	保護者と連携して、粘り強く生活習慣を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	71%	↑	90%	3.2
	26	いじめ根絶に向けて、全職員でいじめ防止基本方針を確認し、全職員で連携して取り組んでいる。	94%	=	95%	3.5
安全管理	27	生徒に体力・健康の自己管理ができるよう、治療のすすめ、生活習慣などの指導を行った。	94%	=	95%	3.4
	28	災害、危険防止の観点から危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。	88%	↑	95%	3.4
	29	学校保健計画・学校安全計画を確認し、計画的に指導している。	94%	↓	85%	3.4
	30	P T A活動の内容を理解し、積極的に取り組もうとしている。	47%	↑	75%	2.8
特別支援教育	31	特別な支援を必要とする生徒に対して、学級経営や授業の中で配慮を行っている。	100%	=	100%	3.4
	32	ユニバーサルデザインの考え方に基いた授業実践に努めている。	81%	↑	100%	3.3
	33	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別的教育支援計画を適切に作成しようとしている。	73%	↑	100%	3.6
	34	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉(児相など)関係機関との連携を図ろうとしている。	87%	↑	100%	3.4
	35	特別支援学級の生徒との交流学習を図っている。	94%	↑	100%	3.6
研究と修養	36	学年・教科を越え、教員としての力量形成のための研修を進めている。	100%	↓	95%	3.4
	37	初任者、若手教員、栄養職員、養護教諭等の校内職員の研修に、積極的に関わり、人材育成に寄与している。	76%	↑	90%	3.2
	38	郷土の偉人や業績、地域の歴史を学ぶカリキュラムに基づき授業を実施し、小中(高)をつなぐ教育を進めようとしている。	71%	=	70%	2.8
	39	小中一貫教育の推進に向けて、小学校と連携し、小中一貫の考え方、方針等の共有化を図り、9年間を見通した教育を系統的・計画的に行おうとしている。	71%	↑	90%	3.2
組織・広報	40	学校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域と連携を図り、教育活動の理解や参画を得るように努めている。	88%	↑	95%	3.3
	41	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図っている。	100%	↓	95%	3.4
	42	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行っている。	94%	↑	100%	3.4
	43	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行されている。	65%	↑	85%	2.9
	44	H P ・学校便り・学年だより・学級だより・保健だよりや給食だより、相談室だよりなど学校広報が進んでいる。	94%	=	95%	3.5

# 1 令和元年度 学校評価アンケート集計からの考察と次年度に向けての取り組み

1.共通項目の結果の比較から考察と次年度への具体的な手立てを考えたいと思います。

2020.2

## (1). 生徒・保護者・地域アンケートと教職員による自己評価集計数

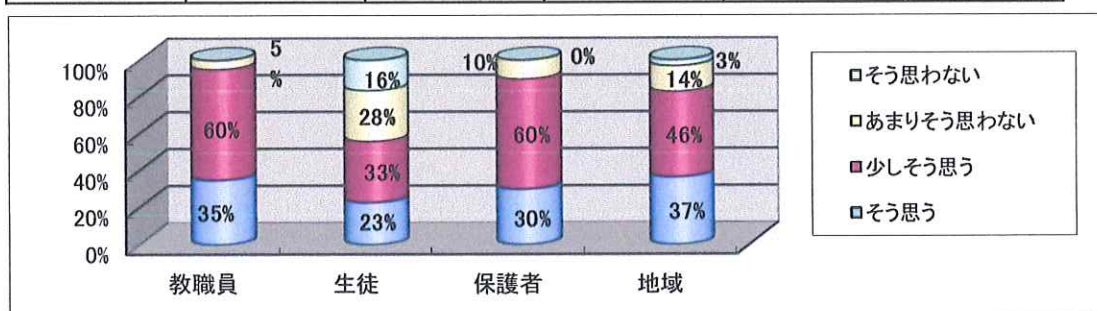
	在籍数	集計数	回収率
教師	20	20	100%
保護者	210	197	94%
生徒	210	194	92%
地域	514	128	25%
全体	954	539	56%

## (2). 集計内容

※ 表内の数字は集計数を百分率(四捨五入)で表示しています。また、無回答については集計数に入れていません。

### ① 布佐中は積極的に地域との連携を図っている。(生徒:地域の行事に積極的に参加している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	35%	60%	5%	0%	100%
生徒	23%	33%	28%	16%	100%
保護者	30%	60%	10%	0%	100%
地域	37%	46%	14%	3%	100%

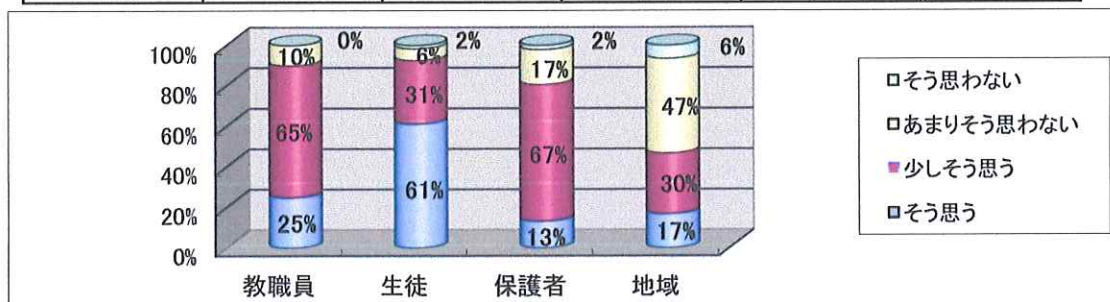


### 〈考察〉

生徒会の目標の中にも、積極的に生徒が地域の中に入って地域貢献をしたいというものもあるが、44%の生徒は、まだまだ地域の中に出ての活動は十分だという認識がないようである。郷土芸能や吹奏楽部の活動、竹内神社祭礼への参加など多くの地域行事への参加もあるが、自治会との連携や広報なども更に必要と思われる。ボランティア生徒のみの参加(15名)ではあったが地域合同避難訓練への参加を今年度行ったが、次年度以降も継続・推進していきたい。

### ② 布佐中生は互いのことを気づかい思いやりの心にあふれている。(いじめ根絶に向けて努力している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	25%	65%	10%	0%	100%
生徒	61%	31%	6%	2%	100%
保護者	13%	67%	17%	2%	100%
地域	17%	30%	47%	6%	100%



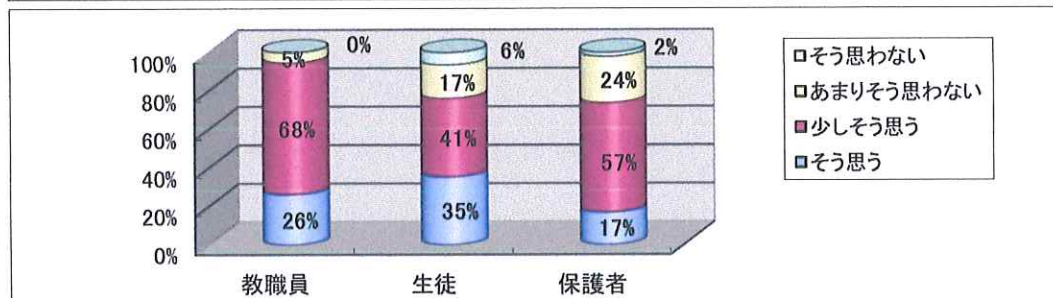
### 〈考察〉

道徳教育をはじめとして布佐中学校の生活すべてを通した「思いやり」の心を育てる教育の実践の更なる充実が必要であることが、20%弱の保護者や53%の地域の方々の回答に表れている。生徒を中心に学校だけでなく、家庭や地域で「思いやり」の心を育てるための連携・協力を進める必要がある。教職員の言葉遣い等の言動についても注意していく必要もあり改善したい。



③ 授業の中でグループ学習で学び合う学習は楽しく、学力がつくと思う。(グループを活用して「活動と協同」のある授業を行っている)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	26%	68%	5%	0%	100%
生徒	35%	41%	17%	6%	100%
保護者	17%	57%	24%	2%	100%

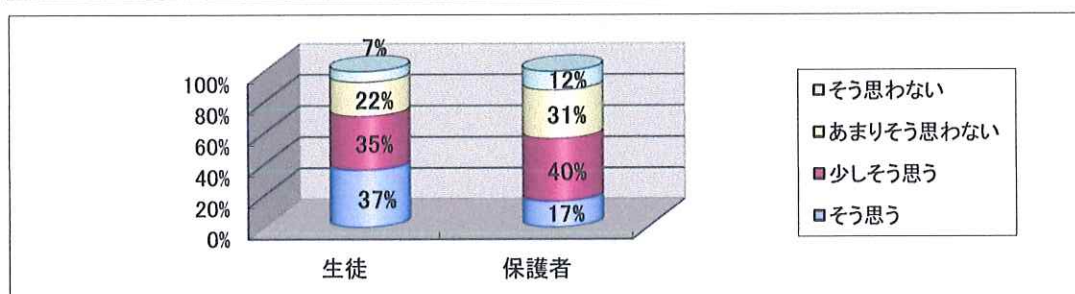


〈考察〉

「自ら学び 共によりよく」と学校目標にもあるように、学び方については、自学だけでなく「学び合い」が重要で、話し合い、教え合うことで考えが深まり、分からないことも分かっていく。新学習指導要領でも「主体的・対話的で深い学び」がキーワードとなっており、今後も活動と協同のある授業を行っていくが、教室内での机の配置、グループ隊形のみということについては検討しており、必要に応じてグループ隊形にするなどの学習形態の工夫をしていく。

④ 布佐中生は予習や復習など、家庭学習に熱心に取り組んでいる。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
生徒	37%	35%	22%	7%	100%
保護者	17%	40%	31%	12%	100%

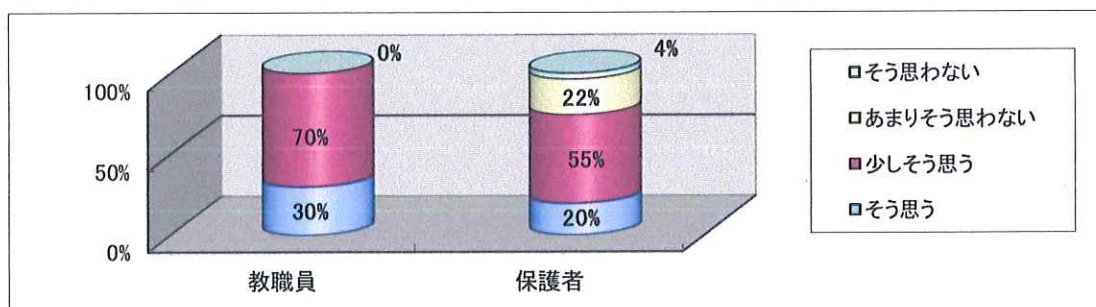


〈考察〉

予習・復習が大切であることは分かっているが、学習習慣の定着や家庭学習の充実など学び方や学習時間については生徒の29%、保護者では43%が不十分と認識している。学校としても、学びに取り組む姿勢や学び方について、きめの細かな指導や支援の充実・推進がさらに必要である。また、「ふさ子ども学習室」など地域の支援もあるので学校・家庭・地域での連携を深めていく。

⑤ 学校は、特別に支援を必要とする生徒等、個々の生徒のニーズに応じた教育的支援を行っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	30%	70%	0%	0%	100%
保護者	20%	55%	22%	4%	100%

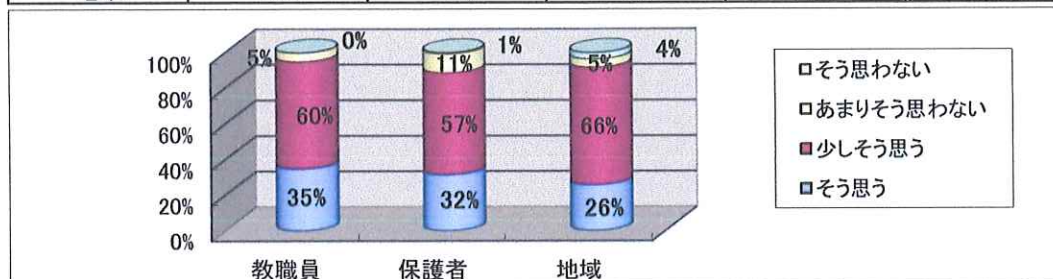


〈考察〉

特別支援学級だけでなく通常級においても一人ひとりの生徒に応じた合理的配慮や特別な支援について丁寧に実施していくことは、布佐中学校の喫緊の課題となっている。現在、地域のボランティアの皆様のご協力を得て、学習支援室での個別の学習もおこなっているが、その方法や支援の内容、教職員の配置等課題も多く次年度教育課程の編成において改善策を講じ、より充実したものとしていきたい。

⑥ 学校HPや学校・学年だより等で学校の様子や情報を積極的に知らせている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	35%	60%	5%	0%	100%
保護者	32%	57%	11%	1%	100%
地域	26%	66%	5%	4%	100%

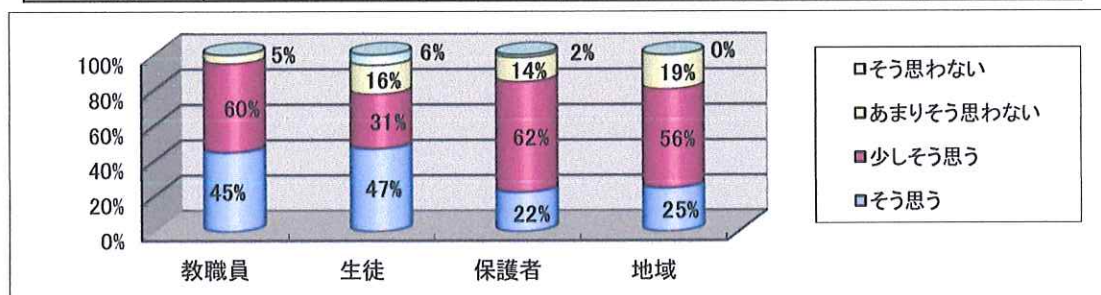


〈考察〉

8割以上の保護者や地域の方に肯定的な回答をいただいているが今後も学校だよりや学校HPの充実に努めていきたい。また、次年度の予定表や行事の案内など早めの文書案内を出すよう保護者の方からも要望があり、できる限りの行事案内を早めに出すことを始めており、今後も多く参加いただけるよう努力していきたい。

⑦ 布佐中生は避難訓練に参加して防災や安全に気をつけて生活している。  
(危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	45%	50%	5%	0%	100%
生徒	47%	31%	16%	6%	100%
保護者	22%	62%	14%	2%	100%
地域	25%	56%	19%	0%	100%

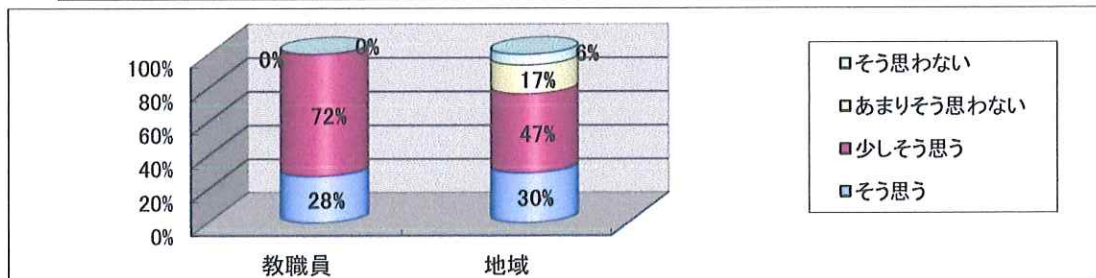


〈考察〉

今年度、布佐地区合同避難訓練に15名の生徒が参加させていただいたが、今後も地域の住民としての生徒の防災意識や対応など防災教育の推進が必要と思われる。校内の避難訓練は、火災、洪水、不審者対応と計画的に行っており充実に努めていきたい。不審者対応訓練では、我孫子警察署の方にも協力をいただいた。対応道具のさす又の不足など課題も明確になった。洪水・冠水については、校地内道路も自動車通行ができなくなる現状もあるので、緊急避難場所や保護者への引き渡し場所等については、隣接高台にある布佐小との連携、協力が必要となっており協議を進めている。

⑧ 「保護者・地域とともに創る学校」を意識し、様々な場面で生徒たちの様子を見守り声をかけるように意識している。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	28%	72%	0%	0%	100%
地域	30%	47%	17%	6%	100%

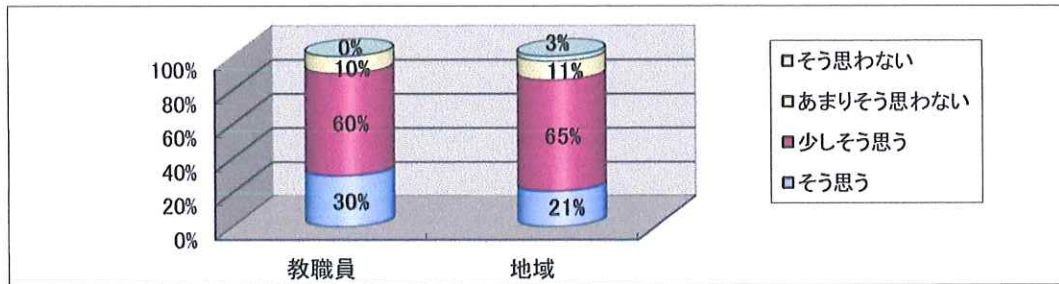


〈考察〉

地域の方からの声として、生徒の挨拶が少なくなってきたのではないかと指摘があった。生徒会本部では、布佐駅や小中校門で定期的に「挨拶運動」なども行っているが、日常の登下校での「あいさつ」については、まだまだ不十分で、校内での爽やかな挨拶が交わされている一方で、校外に出るとあいさつできない現状がある。挨拶の励行は学校でも絶えず声をかけ、教職員も率先垂範で見本を示していきたい。

⑨ 布佐中は、家庭や地域と連携し、一体となって生徒を育てており、地域と共に小中一貫教育の推進を図っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	30%	60%	10%	0%	100%
地域	21%	65%	11%	3%	100%

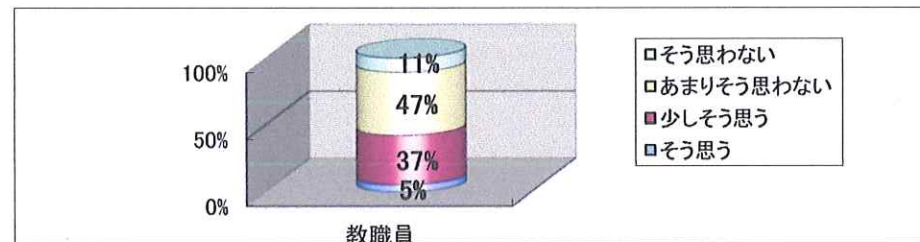


〈考察〉

小中一貫というよりも地域連携・小小、小中連携の推進で今年度も活動した。小学6年生の体験入学を年4回実施、布佐南小と布佐小の6年生同士の交流会も実施した。また、市内小中一貫の日に合わせて布佐中の授業を2小学校のすべての先生に参観してもらった。中一ギャップの解消の他、総合的な学習の時間での郷土学習(ふさカリキュラム)なども続けていく予定である。また、地域ボランティアによる学習支援(日本語指導や教科指導)も積極的に取り組んでいただいている。地域学校協働活動の充実にむけてコーディネーターさんの活躍も大きく地域の教育力で支えられている現状である。

⑩ 読書・読書活動の充実のための取り組みをしている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	5%	37%	47%	11%	100%

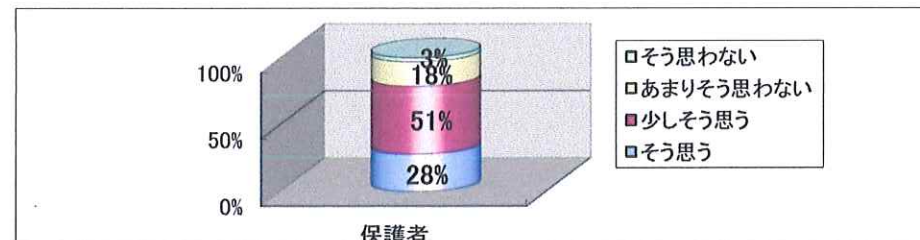


〈考察〉

昨年度に引き続き我孫子市教育委員会より「学校図書館活用の推進」テーマで研究指定を受けている。各教科・領域での図書室の利用を計画的に行うことを目標に取り組んできたが、まだまだ生徒の読書活動の活発化や授業での利用、読書量・時間の増加にはつなげていないということが50%近くの回答に表れていると思われる。各教科の年間の指導計画の中に図書室利用を組み入れる等具体的に組み込みたい。図書ボランティアさんや図書委員会生徒を中心に図書室の環境整備が進められ、今年度から「ふさカリキュラムコーナー」を設置し充実に努めている。今年度、朝のBasicの時間に「読書」の期間を設け一斉に読書するようにしたが、継続する方向でさらに検証していく。

⑪ 学校が教職員の働き方改革の観点から夜間休日の自動音声電話対応を導入したことは意義のあることである。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
保護者	28%	51%	18%	3%	100%



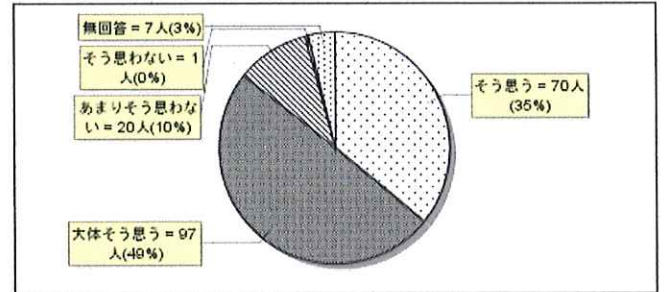
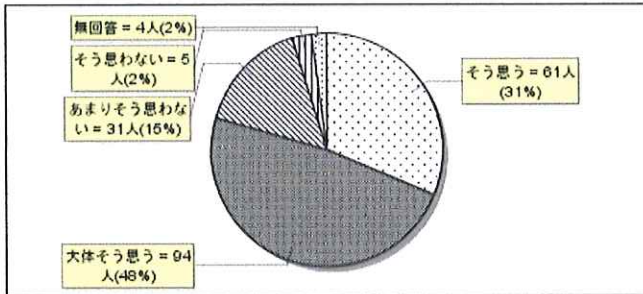
〈考察〉

おおかたの保護者の方には理解を得られている面もあるが、土日祝日を中心に部活動の顧問に連絡が繋がらない等の不便さや不都合さを指摘する記述もあり、周知だけでなく、緊急の場合の連絡など調整が必要であると思われる。自動音声対応は我孫子市内全小中で導入されたため、市内全校で同様の質問を設定し、結果は市全体の今後の運用の参考資料とされる。

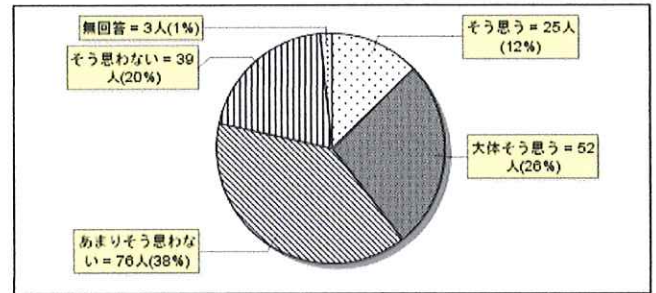
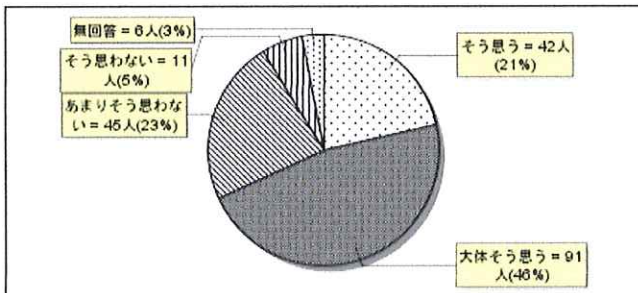
# 令和元年度 学校評価のための生徒アンケート結果

## ○学習に関すること

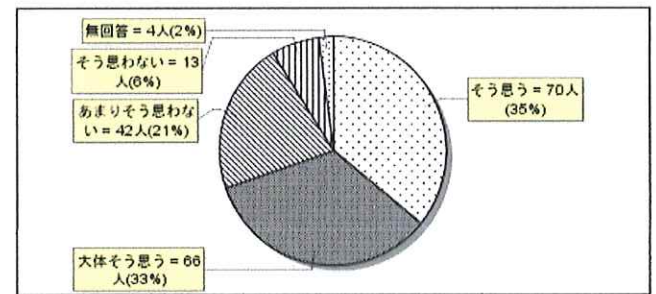
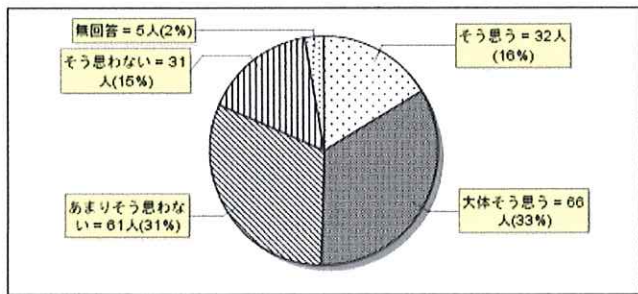
1. 楽しく授業を受けることができた。(できている)      2. 授業に対しては真剣に取り組んでいる



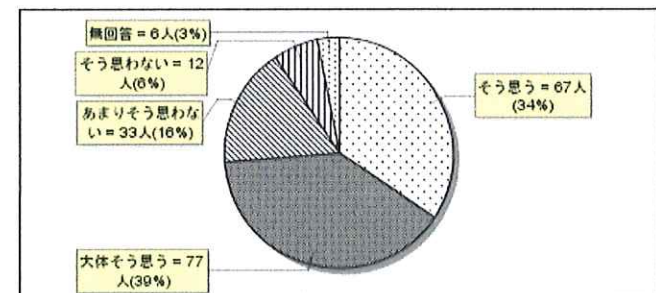
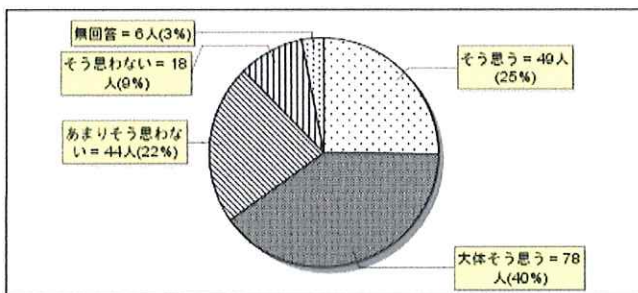
3. 授業の内容は、分かりやすい教科が多いと思う。      4. 毎日の授業の予習は家庭でやる時間を作って取り組んでいる



5. 毎日の授業の復習は家庭でやる時間を作って取り組んでいる。      6. 宿題や課題など家庭学習はまじめに取り組んでいる。(塾は除く)

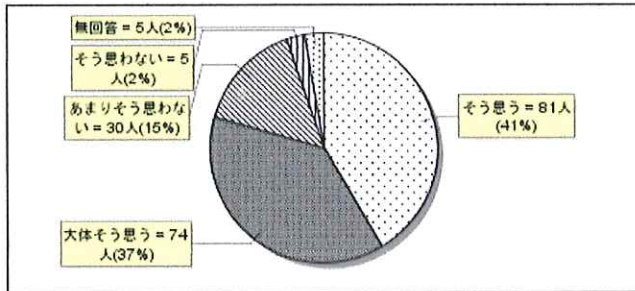


7. 授業で分からないところは先生に質問する。(質問したい)      8. 授業の中のグループ学習で学び合う学習は楽しく、学力がつくと思う。

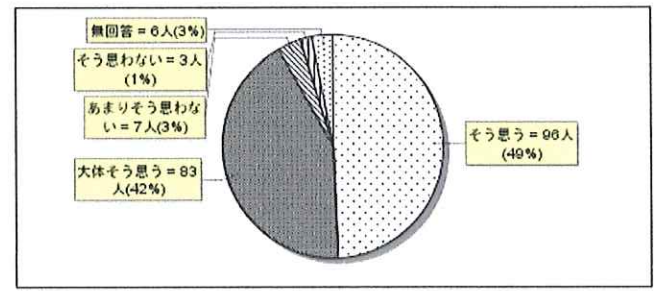


○学校生活に関すること

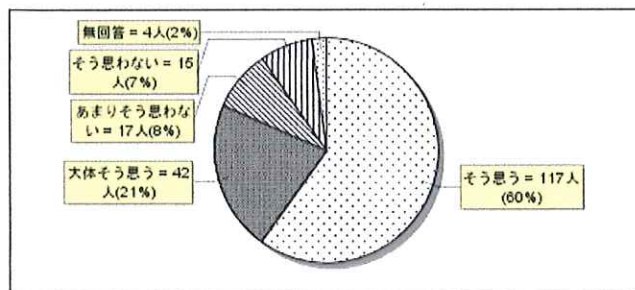
1. 自分から進んで明るいあいさつをしている。



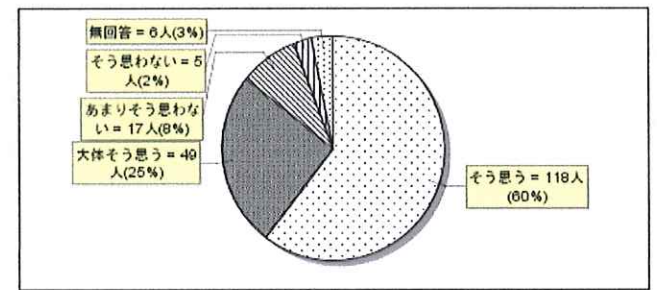
2. 友だちにやさしく接することができた。



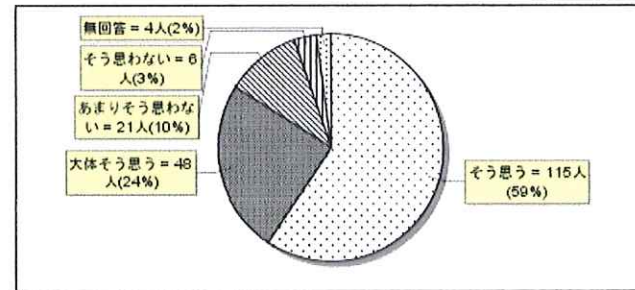
3. 遅刻や欠席も少なく、元気よく登校できた。



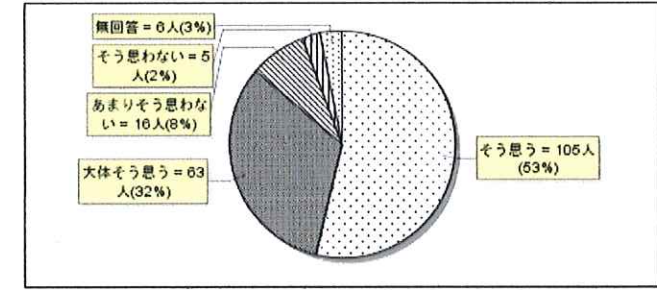
4. 服装、頭髪など身なりをきちんと整えている。



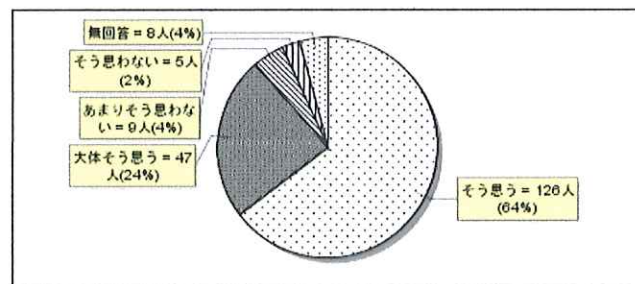
5. 体育祭や合唱祭など学校行事に積極的に取り組んでいる。



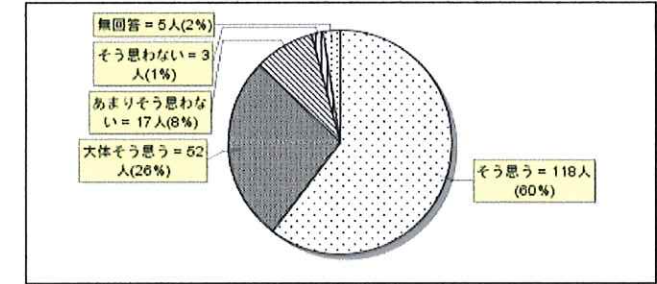
6. 清掃には一生懸命取り組み、校内の美化に努めている。



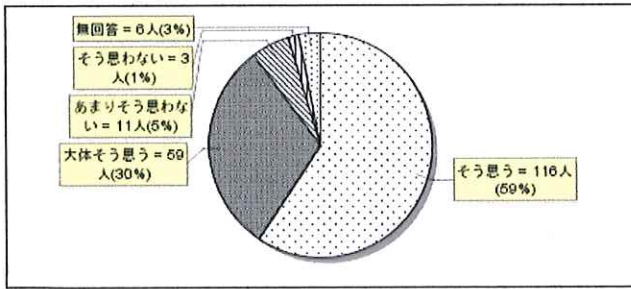
7. 給食は残さず食べるようにして、食事と健康について考えている。



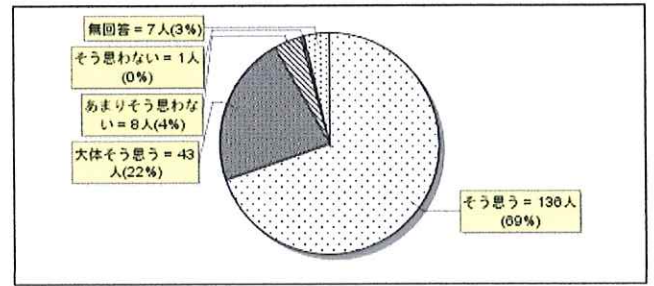
8. 人のいやがることを言ったり、他人への暴力をふるうなど人のいやがることはしていない。



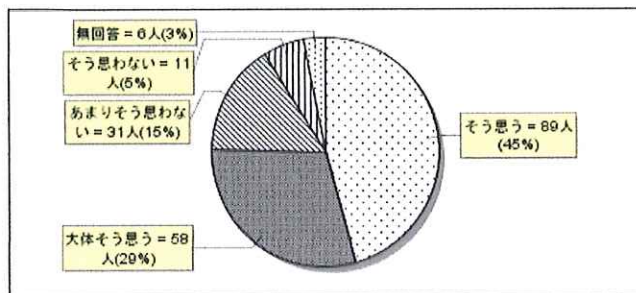
9. いじめなどの「あってはいけないこと」は、  
進んでなくす努力をした。(なくしたいと思う)



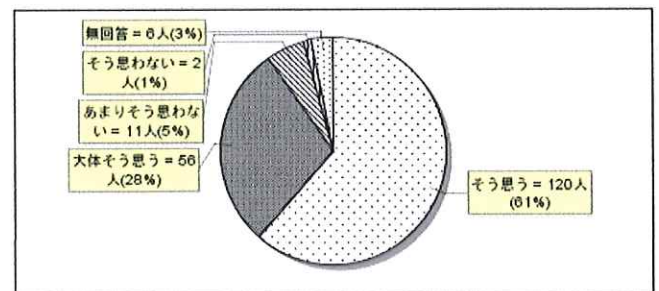
10. 自転車の運転や方向など、交通ルールや  
登下校のマナーを守ることができた。



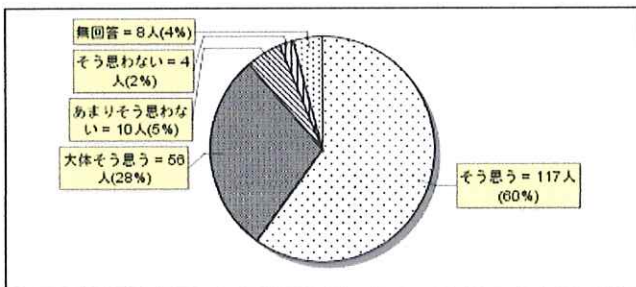
11. 避難訓練に参加するなど、防災や安全に気をつけて生活している。



12. 校内での集団生活のマナーやルールを守っている。

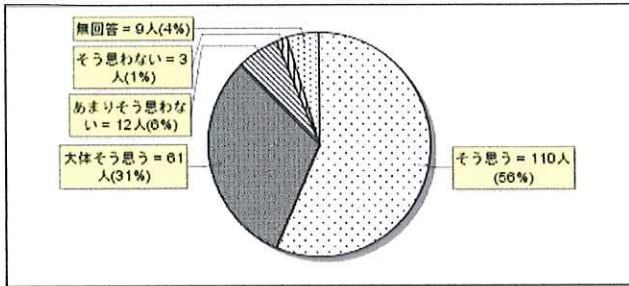


13. 委員会や係の活動に責任をもって取り組み、  
助け合い協力することができた。

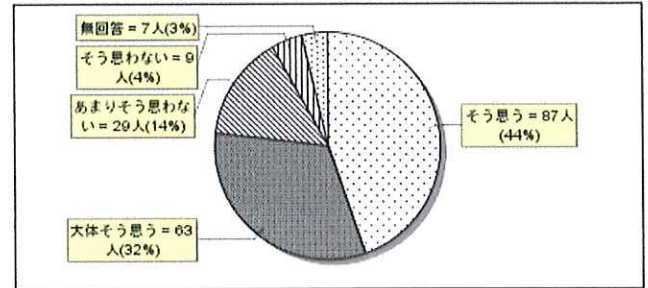


○自分自身と身のまわりの人とのかかわりについて

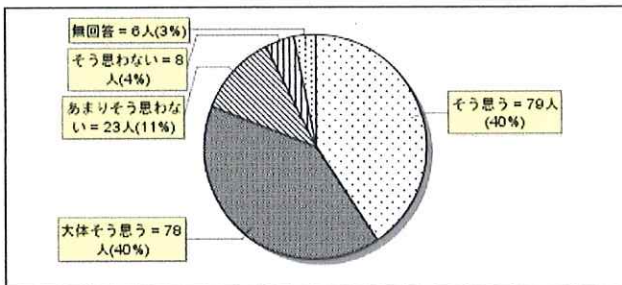
1. 健康に気をつけて規則正しい生活を送るよう努力している。



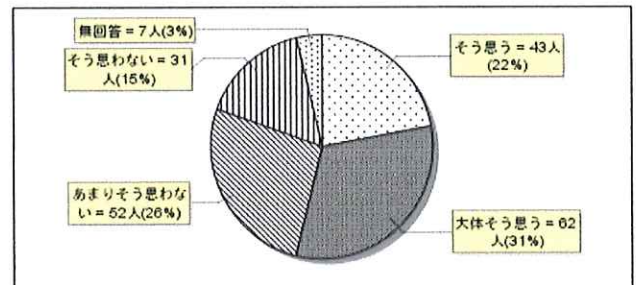
2. 自分の将来の進路（進学や仕事）について真剣に考えている。



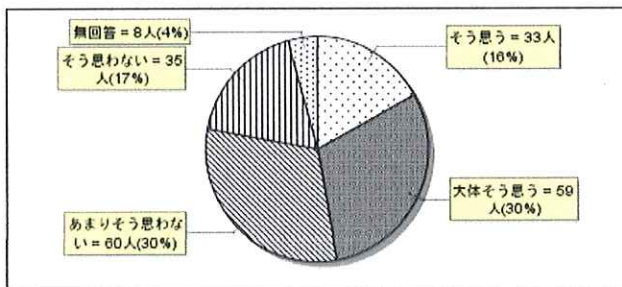
3. 家庭への配布物などは、保護者に確実に渡し目を通してもらっている。



4. 自分が住んでいる地域の行事には進んで参加している。（参加したいと思っている）



5. 地域でのボランティア活動に参加する機会があれば、積極的に参加している。（参加したいと思っている。）



## 2 生徒アンケート結果と考察

「4そう思う」「3大体そう思う」の割合

○学習に関すること		4 3 2 1 無回答					令和元年度 平成30年度			
		4 %	3 %	2 %	1 %	無回答	30%	50%	80%	100
1	楽しく授業を受けることができた。(できている)	31%	48%	15%	2%	2%	R1年度 79% H31年度 87%			
2	授業に対しては真剣に取り組んでいる	35%	49%	10%	0%	3%	84% 90%			
3	授業の内容は、分かりやすい教科が多いと思う。	21%	46%	23%	5%	3%	67% 73%			
4	毎日の授業の予習は家庭で作って取り組んでいる	12%	26%	38%	20%	1%	38% 40%			
5	毎日の授業の復習は家庭で作って取っている。(塾は除く)	16%	33%	31%	15%	2%	49% 58%			
6	宿題や課題など家庭学習はまじめに取り組んでいる。	35%	33%	21%	8%	2%	68% 74%			
7	授業で分からないところは先生に質問する。(質問したい)	25%	40%	22%	9%	3%	65% 61%			
8	授業の中のグループ学習で学び合う学習は楽しく、学力がつくと思う。	34%	39%	16%	6%	3%	73% 81%			

### ○学校生活に関すること

1	自分から進んで明るくあいさつをしている。	41%	37%	15%	2%	2%	78% 87%			
2	友だちにやさしく接することができた。	49%	42%	3%	1%	3%	91% 89%			
3	遅刻や欠席も少なく、元気よく登校できた。	60%	21%	8%	7%	2%	81% 83%			
4	服装、髪など身なりをきちんと整えている。	60%	25%	8%	2%	3%	85% 87%			
5	体育祭や合唱祭など学校行事に積極的に取り組んでいる。	59%	24%	10%	3%	2%	83% 91%			
6	清掃には一生懸命取り組み、校内の美化に努めている。	53%	32%	8%	2%	3%	85% 89%			
7	給食は残さず食べるようにして、食事と健康について考えている。	64%	24%	4%	2%	4%	88% 89%			
8	人のいやがることを言ったり、他人への暴力をふるうなど人のいやがることはしていない。	60%	26%	8%	1%	2%	86% 89%			
9	いじめなどの「あってはいけないこと」は、進んでなくす努力をした。(なくしたいと思う)	59%	30%	5%	1%	3%	89% 88%			
10	自転車の運転や方向など、交通ルールや登下校のマナーを守ることができた。	69%	22%	4%	0%	3%	91% 93%			
11	避難訓練に参加するなど、防災や安全に気をつけて生活している。	45%	29%	15%	5%	3%	74% 81%			
12	校内での集団生活のマナーやルールを守っている。	61%	28%	6%	1%	3%	89% 92%			
13	委員会や係の活動に責任をもって取り組み、助け合い協力することができた。	60%	28%	5%	2%	4%	88% 89%			

### ○自分自身と身のまわりの人とのかわりについて

1	健康に気をつけて規則正しい生活を送るよう努力している。	56%	31%	6%	1%	4%	87% 86%			
2	自分の将来の進路(進学や仕事)について真剣に考えている。	44%	32%	14%	4%	3%	76% 76%			
3	家庭への配布物などは、保護者に確実に渡し目を通してもらっている。	40%	40%	11%	4%	3%	80% 78%			
4	自分が住んでいる地域の行事には進んで参加している。(参加したいと思っている)	22%	31%	26%	15%	3%	53% 61%			
5	地域でのボランティア活動に参加する機会があれば、積極的に参加している。(参加したいと思っている。)	16%	30%	30%	17%	4%	46% 54%			

#### <考察>

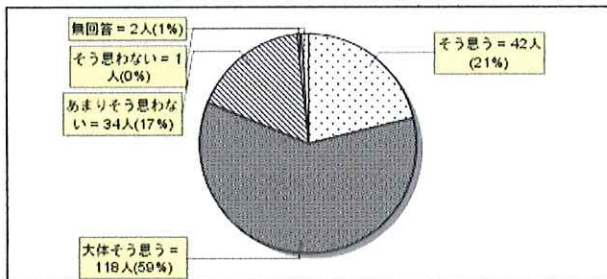
- 全体的に生徒自身の達成感が低下傾向にあることが分かり、教職員・生徒・保護者で現状を分析し原因と対策を具体的に立てる必要がある。まずは、分かりやすい授業、生徒が「分かった」と思える授業づくりに努める必要がある、生徒自身も「毎日の予習・復習」は50%以下と低く、取り組みを充実させたい。自分の時間にあわせて計画を作り、実施できる学習習慣づくりなども必要と思われる。
- 生活については、学校内外で進んで明るくあいさつをすることや安全に気をつけて生活することの達成率が低く気をつけて取り組む必要がある。
- 地域のボランティア活動は、今年度「合同避難訓練」ボランティアを募り参加者も大勢いたが、他の行事・機会にも今後も積極的に参加することが望まれる。



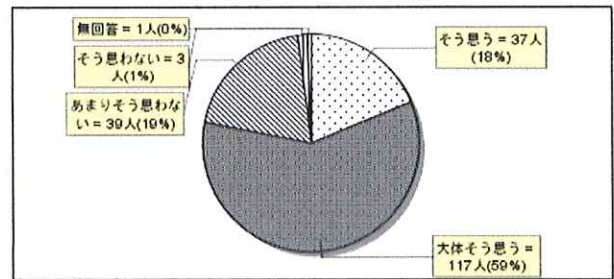
# 令和元年度 学校評価のための保護者アンケート結果

## ○布佐中学校に関すること

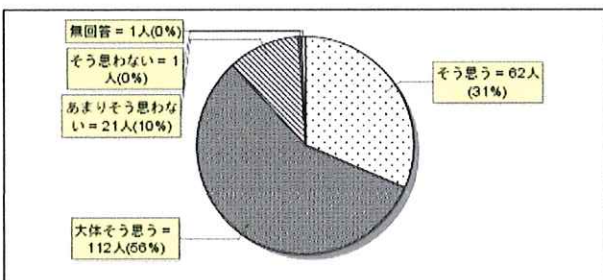
1. 学校は教育方針（目標）を理解されるよう努めており、保護者もそれに質問し連携に努めている。



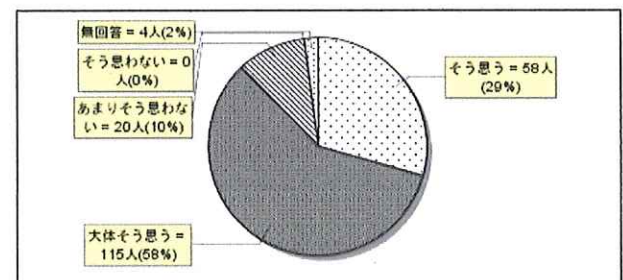
2. 学校は保護者会や通知票等で、子どもに身につけさせたい学力を示し、達成度をわかりやすく伝えている。



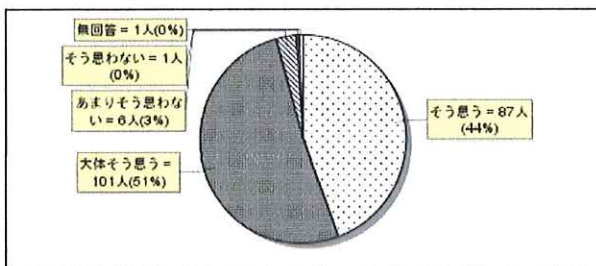
3. 学校は、学校・学年だより、ホームページ等で学校の様子・情報を積極的に知らせている。



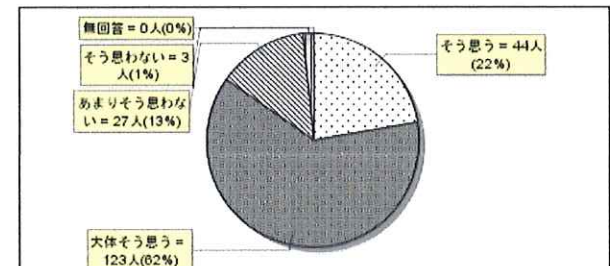
4. 学校は、保護者や地域の方に教育内容を公開し、地域との連携を図ろうとしている。



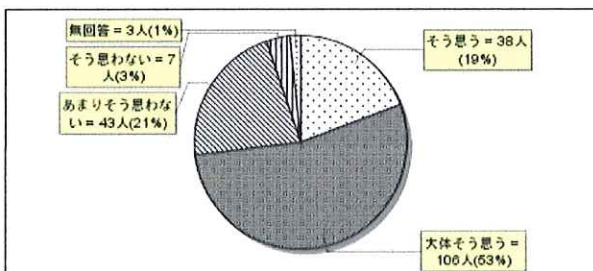
5. 学校は、ふさカリキュラムや布佐タイムなどの特色ある教育活動を行っている。



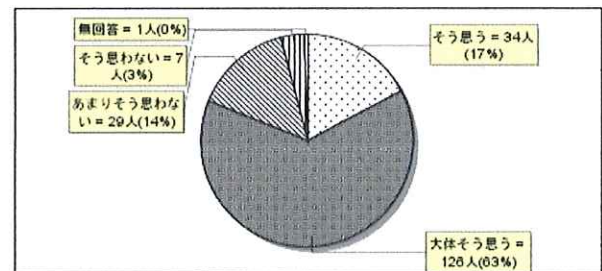
6. 学校は、避難訓練の実施などを通して、布佐の町に住む子どもたちに防災教育をしている。



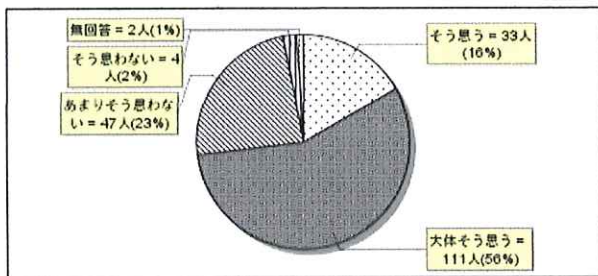
7. 学校は、特別に支援を必要とする生徒等、個々の生徒のニーズに応じた教育的支援を行っている。



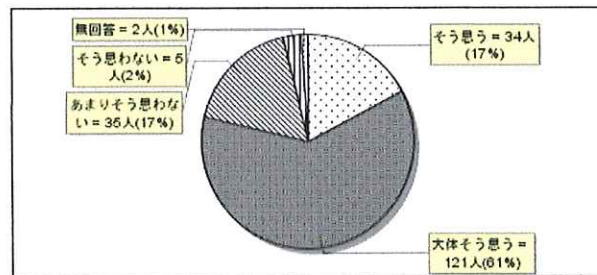
8. 学校は、生活マナーや社会のルールを大切に教育に努めている。



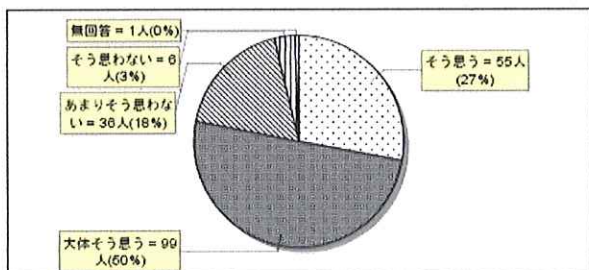
9. 学校は、グループ学習など工夫をこらして生徒の学力の向上に力を尽くしている。



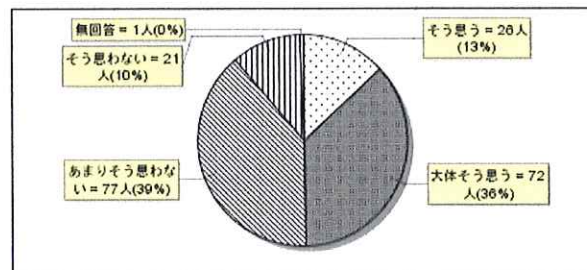
10. 学校は、交通安全指導や防災教育など、子どもの安全確保に努めている。



11. 学校が教職員の働き方改革の観点から夜間休日の自動音声電話対応を導入したことは意義のあることである。

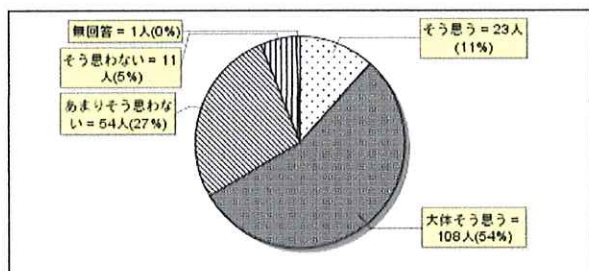


12. 学校が期間をもうけて教職員が家庭訪問を行うことは必要なことである。

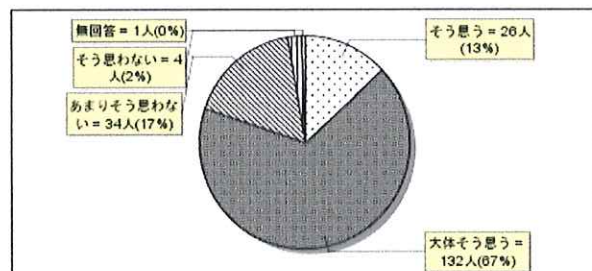


### ○布佐中生に関すること

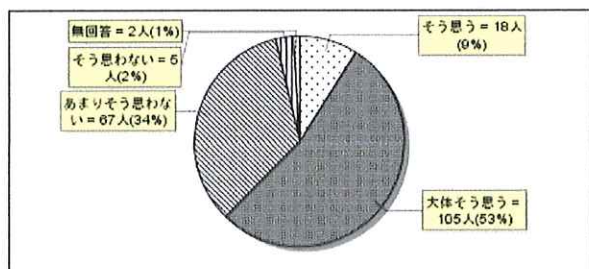
1. 布佐中生は、登下校時など進んで挨拶ができ、活気あふれる学校となっている。



2. 布佐中生は、お互いのことを気づかい、思いやりにあふれる学校になっている。

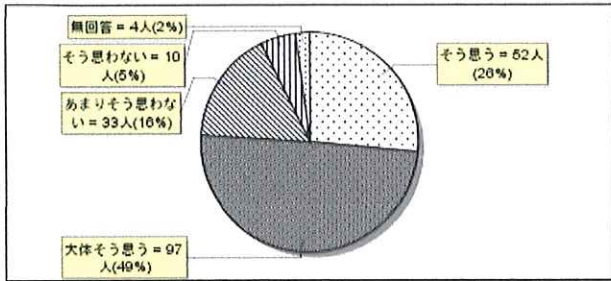


3. 布佐中生は、自ら学び、積極的に授業に取り組んでいる。

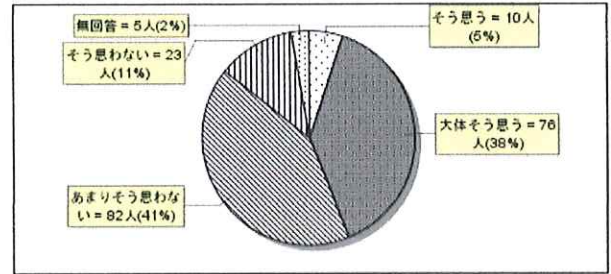


○自分のお子様に関すること

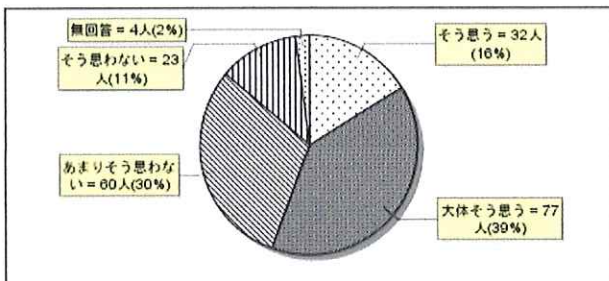
1. お子様は、学校へ行くことを楽しみにしている。



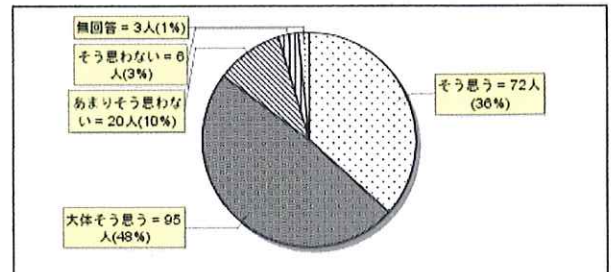
2. お子様は、授業が分かりやすいと言っている。



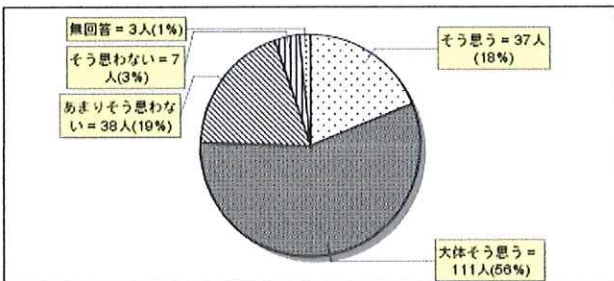
3. お子様は、宿題など家庭学習（塾は除く）にしっかりと取り組んでいる。



4. お子様は、体育祭や合唱祭、宿泊学習などの学校行事に積極的に取り組んでいる。

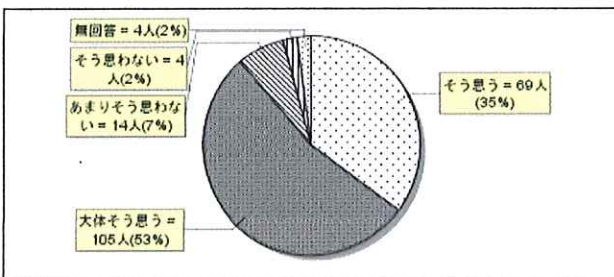


5. お子様は、教職員と円滑な人間関係を築いている。

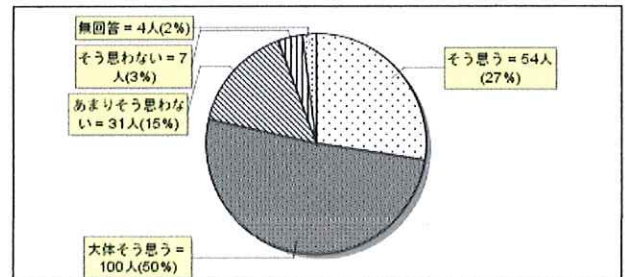


○教職員に関すること

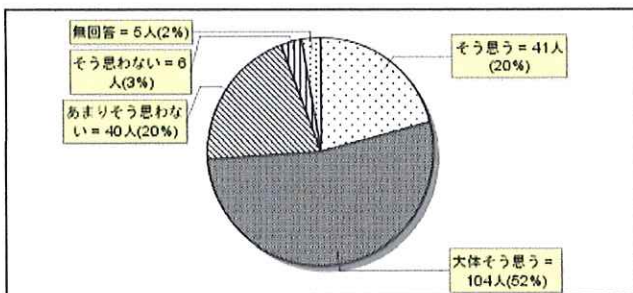
1. 教職員は、保護者からの問い合わせや来校時に丁寧な対応をしている。



2. 教職員は、家庭への連絡等を適切に行っている。

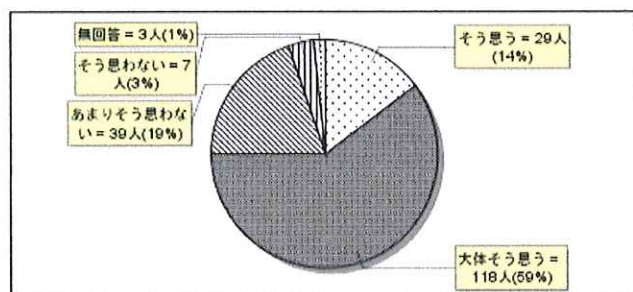


3. 教職員は、子どもの理解に努め、相談や指導を丁寧に行っている

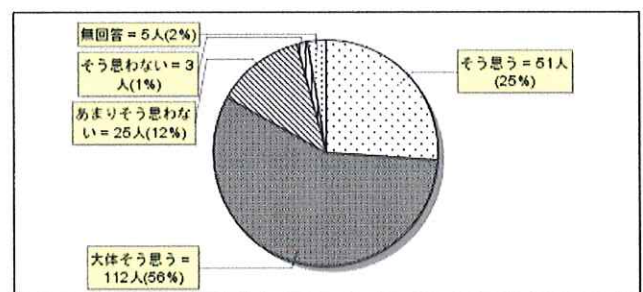


○保護者の方に関すること

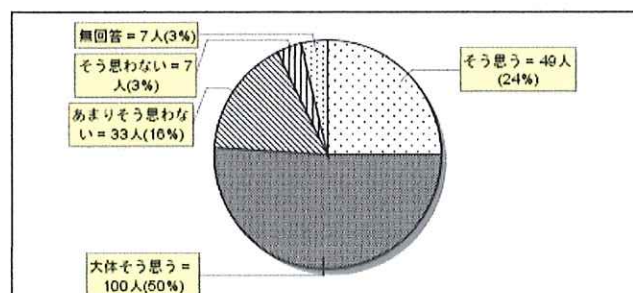
1. 子どもの健全な育成のため、担任等と積極的に意思疎通を図っている。



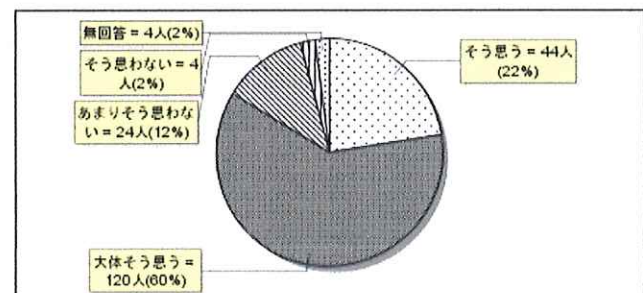
2. 保護者として、学校の教育方針（目標）に関心があり、学校・学年だよりなどは目を通すようにしている。



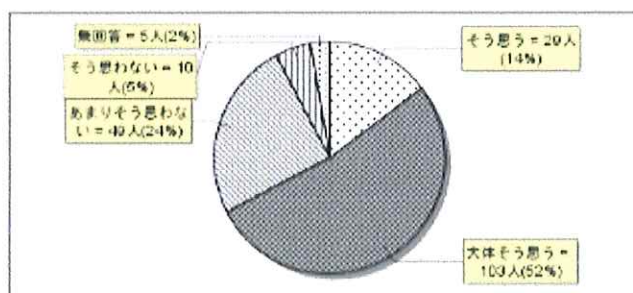
3. 保護者として、授業参観や学校行事等に積極的に参加し、子どもの様子を把握しようとしている。



4. 保護者として、子どもの家庭学習の必要性を理解し、提出物などもしっかり提出するように声をかけている。



5. 地域の一員として、布佐中生たちを見守り声をかけるように意識している。



### 3 保護者アンケート結果と考察

4 そう思う 3 大体そう思う 2 あまりそう思わない 1 そう思わない

#### ○布佐中学校に関すること

	4 %	3 %	2 %	1 %	無 回 答	割合			
						30%	50%	80%	100%
1 学校は教育方針(目標)を理解されるよう努めており、保護者もそれに質問し連携に努めている。	21%	59%	17%	0%	1%	令和元年度 平成30年度 R1年度 79% 88%			
2 学校は保護者会や通知票等で、子どもに身につけさせたい学力を示し、達成度をわかりやすく伝えている	18%	59%	19%	1%	0%	77% 88%			
3 学校は、学校・学年だより、ホームページ等で学校の様子・情報を積極的に知らせている。	31%	56%	10%	0%	0%	87% 88%			
4 学校は、保護者や地域の方に教育内容を公開し、地域との連携を図ろうとしている。	29%	58%	10%	0%	2%	87% 90%			
5 学校は、ふさカリキュラムや布佐タイムなどの特色ある教育活動を行っている。	44%	51%	3%	0%	0%	95% 94%			
6 学校は、避難訓練の実施などを通して、布佐の町に住む子どもたちに防災教育をしている。	22%	62%	13%	1%	0%	84% 85%			
7 学校は、特別に支援を必要とする生徒等、個々の生徒のニーズに応じた教育的支援を行っている。	19%	53%	21%	3%	1%	72% 79%			
8 学校は、生活マナーや社会のルールを大切にする教育に努めている。	17%	53%	14%	3%	0%	70% 82%			
9 学校は、グループ学習など工夫をこらして生徒の学力の向上に力を尽くしている。	16%	56%	23%	2%	1%	72% 83%			
10 学校は、交通安全指導や防災教育など、子どもの安全確保に努めている。	17%	61%	17%	2%	1%	78% 81%			
11 学校が教職員の働き方改革の観点から夜間休日の自動音声電話対応を導入したことは意義のあることである。	27%	50%	18%	3%	0%	77% (R1年度~)			
12 学校が期間をもうけて教職員が家庭訪問を行うことは必要なことである。	13%	36%	39%	10%	0%	49% (R1年度~)			

#### ○布佐中生に関すること

1 布佐中生は、登下校時など進んで挨拶ができ、活気あふれる学校となっている。	11%	54%	27%	5%	0%	65% 62%			
2 布佐中生は、お互いのことを気づかい、思いやりにあふれる学校になっている。	13%	67%	17%	2%	0%	80% 74%			
3 布佐中生は、自ら学び、積極的に授業に取り組んでいる。	9%	53%	34%	2%	1%	62% 64%			

#### ○自分のお子様に関すること

1 お子様は、学校へ行くことを楽しみにしている。	26%	49%	16%	5%	2%	75% 77%			
2 お子様は、授業が分かりやすいと言っている。	5%	38%	41%	11%	2%	43% 46%			
3 お子様は、宿題など家庭学習(塾は除く)にしっかりと取り組んでいる。	10%	39%	30%	11%	2%	49% 56%			
4 お子様は、体育祭や合唱祭、宿泊学習などの学校行事に積極的に取り組んでいる。	36%	48%	10%	3%	1%	84% 86%			
5 お子様は、教職員と円滑な人間関係を築いている。	18%	56%	19%	3%	1%	74% 74%			

#### ○教職員に関すること

1 教職員は、保護者からの問い合わせや来校時に丁寧な対応をしている。	35%	53%	7%	2%	2%	88% 86%			
2 教職員は、家庭への連絡等を適切に行っている。	27%	50%	15%	3%	2%	77% 80%			
3 教職員は、子どもの理解に努め、相談や指導を丁寧に行っている	20%	52%	20%	3%	2%	72% 74%			

#### ○保護者の方に関すること

1 子どもの健全な育成のため、担任等と積極的に意思疎通を図っている。	14%	59%	19%	3%	1%	73% 71%			
2 保護者として、学校の教育方針(目標)に関心があり、学校・学年だよりなどは目を通すようにしている。	25%	56%	12%	1%	2%	81% 87%			
3 保護者として、授業参観や学校行事等に積極的に参加し、子どもの様子を把握しようとしている。	24%	50%	16%	3%	3%	74% 76%			
4 保護者として、子どもの家庭学習の必要性を理解し、提出物などもしっかり提出するように声をかけている。	22%	60%	12%	2%	2%	82% 82%			
5 地域の一員として、布佐中生たちを見守り声をかけるように意識している。	14%	52%	24%	5%	2%	66% 64%			

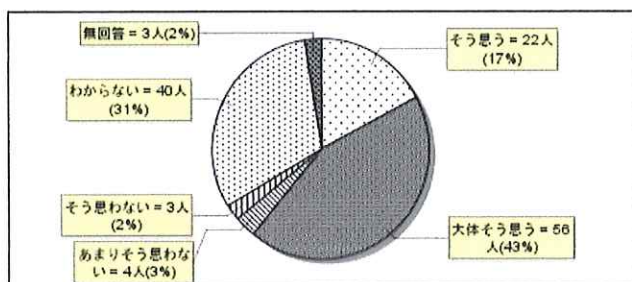
#### <考察>

- ・ 分かりやすい授業の実践については、生徒アンケートと同様に到達率が低く、「分かりやすい授業」の実践が大きな課題となっている。引き続き、分かりやすい授業の実践のための校内研修の実施や各教科での部内・個人研修等積み重ねていく必要がある。新学習指導要領の実施の前年となる令和2年度は、「主体的・対話的で深い学び」に向けた取り組みを「分かる授業」の実践として学校全体で取り組んでいきたい。
- ・ 学習習慣の定着については、学校と家庭が連携しなければできないものであり、地域の支援(学習ボランティア等)も引き続き受けながら、生徒が「自ら学ぶ」ことのできるよう取り組みたい。
- ・ 「ふさタイム」等の総合的な学習の時間を中心とした本校独自の特色ある取り組みは今後も継続、充実させていきたい。
- ・ 家庭訪問は、生徒理解のための一つの取り組みとして実施しており、授業時数確保等の課題もあり検討を継続していくが、次年度も継続の方向である。夜間休日の音声自動対応については、部活動顧問への連絡がつかない場合がある等の課題もあり引き続き検討していく必要がある。

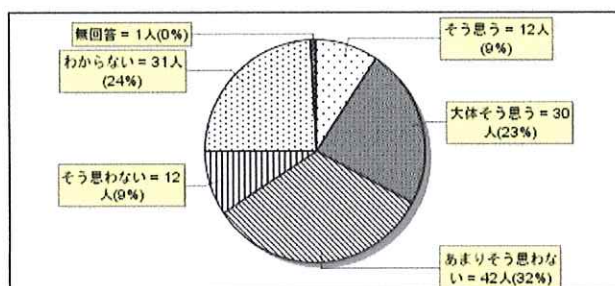
# 令和元年度 学校評価のための地域アンケート結果

## ○布佐中学校に関すること

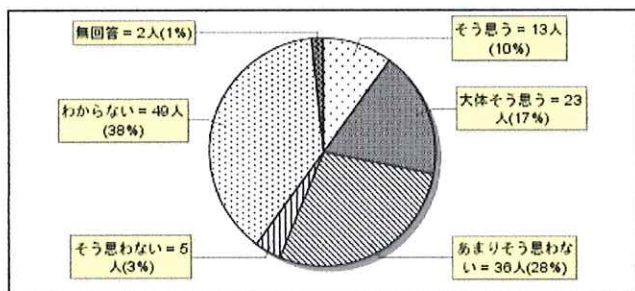
1. 布佐中は、学校だよりやホームページ、教育ミニ集会などで教育方針（目標）や教育活動を理解されるよう努めている。



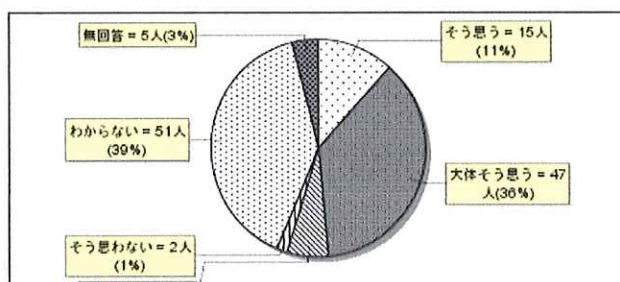
2. 布佐中学生は、登下校などに挨拶ができ、挨拶にあふれる学校になっている。



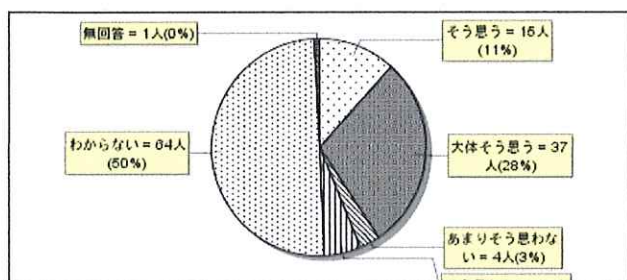
3. 布佐中学生は、地域の方を気づかい、思いやりの心をもった言動をとることができる。



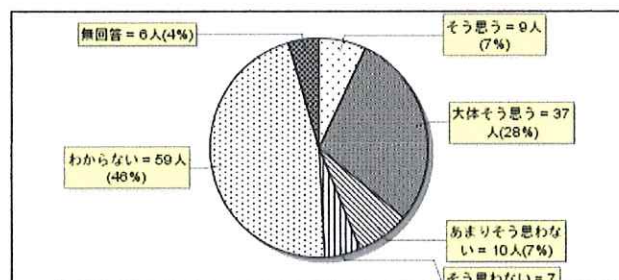
4. 布佐中は、布佐中学校区の小学校2校と連携して、小中一貫教育を進めようとしている。



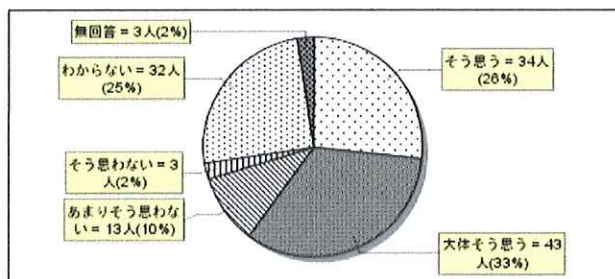
5. 布佐中の教職員は、地域の方々からの問い合わせや来校時などに丁寧な対応をしている。



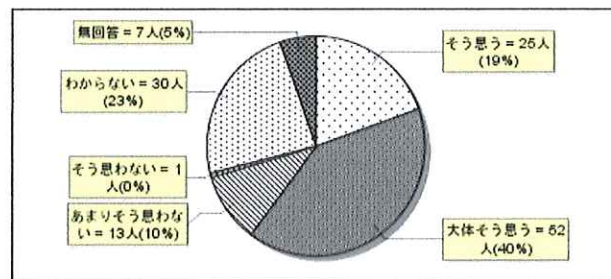
6. 布佐中の教職員は、地域の方や団体の方々と積極的にかかわろうとしている。



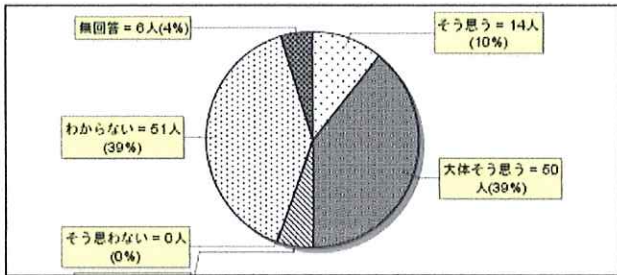
7. 布佐中学生は地域の行事などにも積極的に参加している。



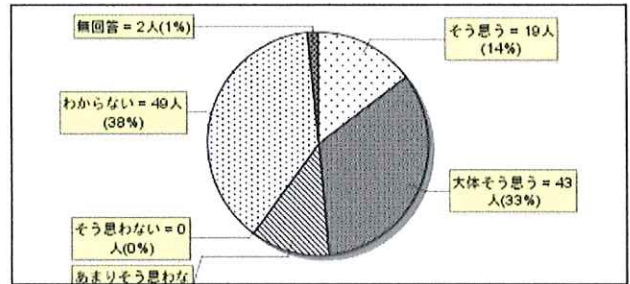
8. 布佐中は、学校・学年だより、ホームページ等で学校の様子・情報を積極的に知らせている。



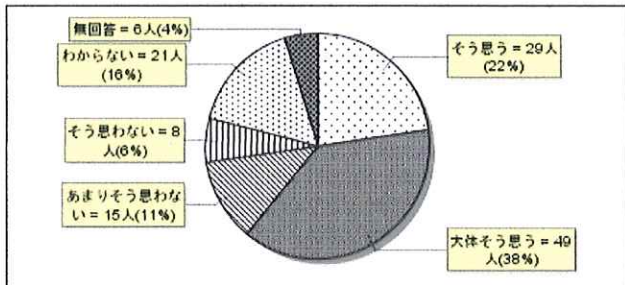
9. 布佐中は、「ふさカリキュラム」や「布佐タイム」などの特色ある教育活動を行い地域と連携している。



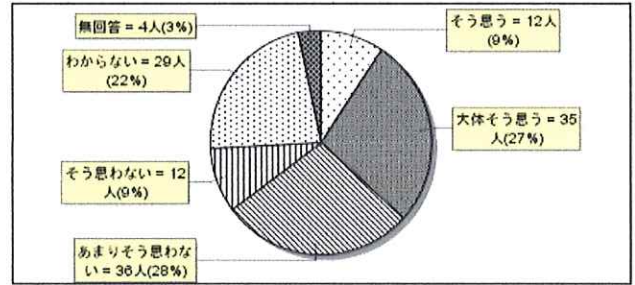
10. 布佐中は、避難訓練の実施などを通して、布佐の町に住む子どもたちに防災意識を育む教育をしている。



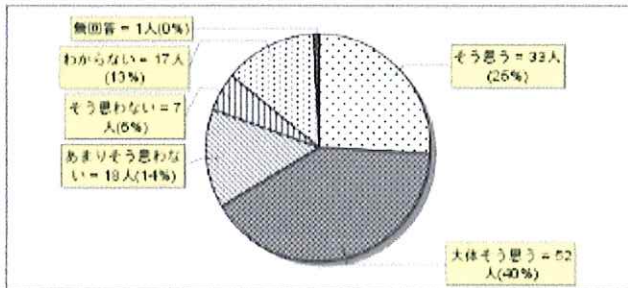
11. あなたは、布佐中の教育方針（目標）や教育活動に関心があり、「学校だより」などにも目を通すようにしている。



12. あなたは布佐中の行っている教育活動（地域による生徒支援）に関心がありその活動に参加したいと思っている。



13. あなたや地域の方々は、登下校時などに子どもたちに声をかけたり、様子を気にかけて見守ってくれている。



# 4 地域アンケート結果と考察

6そう思う 5大体そう思う の割合

	5 % 5 % 3 2 1	4 % 4 % 3 2 1	3 % 3 % 2 1	2 % 2 % 1 0	1 % 1 % 0 0	無 回 答	割合			
							令和元年度	平成30年度		
○布佐中学校に関すること							30%	50%	80%	100
1 布佐中は、学校だよりやホームページ、教育ミニ集会などで教育方針(目標)や教育活動を理解されるよう努めている。	17%	43%	3%	2%	31%	3%	60%	59%		
2 布佐中生徒は、登下校などに挨拶ができ、挨拶にあふれる学校になっている。	9%	23%	32%	9%	24%	0%	32%	30%		
3 布佐中生徒は、地域の方を気づかい、思いやりの心をもった言動をとることができる。	10%	17%	28%	3%	38%	1%	27%	32%		
4 布佐中は、布佐中学校区の小学校2校と連携して、小中一貫教育を進めようとしている。	11%	36%	10%	1%	39%	3%	47%	52%		
5 布佐中の教職員は、地域の方々からの問い合わせや来校時などに丁寧な対応をしている。	11%	28%	3%	8%	50%	0%	39%	46%		
6 布佐中の教職員は、地域の方や団体の方々と積極的にかかわろうとしている。	7%	28%	10%	5%	46%	4%	35%	33%		
7 布佐中生徒は地域の行事などにも積極的に参加している。	26%	33%	10%	2%	25%	2%	59%	53%		
8 布佐中は、学校・学年だより、ホームページで学校の様子・情報を積極的に知らせている。	19%	40%	10%	0%	23%	5%	59%	59%		
9 布佐中は、「ふさカリキュラム」や「布佐タイム」などの特色ある教育活動を行い地域と連携している。	10%	39%	8%	0%	39%	4%	49%	45%		
10 布佐中は、避難訓練の実施などを通して、布佐の町に住む子どもたちに防災意識を育む教育をしている。	14%	33%	15%	0%	38%	1%	47%	36%		
11 あなたは、布佐中の教育方針(目標)や教育活動に関心があり、「学校だより」などにも目を通すようにしている。	22%	38%	11%	6%	16%	4%	60%	52%		
12 あなたは布佐中の行っている教育活動(地域による生徒支援)に関心がありその活動に参加したいと思っている。	9%	27%	28%	9%	22%	3%	36%	31%		
13 あなたや地域の方々は、登下校時などに子どもたちに声をかけたり、様子を気にかけて見守ってくれている。	26%	40%	14%	5%	13%	0%	66%	60%		

## <考察>

- ・ 「学校だより」等、学校についての広報については若干の向上が見られるものの、まだまだ地域の皆様へのPRやお知らせが不足していると思われる。引き続き、学校だよりの各自治会への配布の依頼や学校HPの更新、充実に引き続き務めたい。また、学校行事への地域の方の参観なども積極的に呼びかけたりする機会を増やしていくことも必要である。
- ・ 防災意識を育むことについて8ポイントの上昇が見られたが、自治会合同避難訓練の生徒のボランティア参加などが影響しているのかもしれない。引き続き計画的な防災教育の推進に努めたい。また、冠水対策など小学校との連携も図っていく必要がある。具体的な協議を更に進めたい。
- ・ 登下校時に地域の方が意識して生徒たちに声をかけていただいていることが分かる。今後もご協力をお願いいたします。また、「地域とともにあゆむ学校づくり」を重点目標として掲げ、地域の皆様の支援により教育活動の推進を図っていきたくと考えております。また、「地域ルーム」は地域の皆様に利用していただく目的で設置されています。ご利用の希望がありましたらお申し出ください。



## 令和元年度 学校運営全般における第3者評価（学校評議員による評価）

### 1 学校教育目標について

・学級目標である“自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成”に照らし合わせ、概ね目標に達していると思う。但し、本地区中学校区に於ける管理職の不可解な短期異動の繰り返しについては地域で不安視されている。また、当中学校区のコーディネーターについても、地域及び保護者から理解されていない様に思われる。（努力しているほどには）これは在任期間及び高齢化が関係していると思われる。

・布佐中学校だより3月号に掲載の学校評価（学校評価のためのアンケート集計及び考察の報告）拝読した多くの住民が「働き方改革等」で厳しい状況の中で学校運営に頑張っている先生方に敬意を表したと思ったことでしょう。私たち地域住民も応援したくなる雰囲気は伝わる学校だよりでした。

・布佐中学校の教職員が、生徒や保護者の期待に向けて地道な努力をしている姿は随所にうかがえ、本年度の重点目標推進についても一定の成果を収めていると評価している。

・重点目標(1)「主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動（表現）できる生徒を育てる」について

教職員による自己評価集計（重点1）を見ても、3（集計1/6）の「重点目標として認識し、実践している」は17人、4（同）の「十分重点として認識し、達成に向けた努力をしている」の2人を加えると95%の高い自己評価となっている。

一方、1（同）の「ほとんど認識がなかった」はゼロで、令和元年度の教育目標達成を目指した全教職員の意識の高さが全体としてうかがえる。平均3.1という評価は、教職員による現状を反映した率直な自己評価と受け止めた。課題については、「主体的となるとまだまだ課題の残る生徒」「学習については改善が必要」「苦戦している子のサポートをもっと…」など教育現場が抱えている問題点が指摘され、研修を重ねながらさらなる努力工夫が求められている。

・重点目標(2)「互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら（自分ではない）誰かのために貢献できる生徒を育てる。」について（集計2/6）

これも平均3.2と高い数値。成果と課題を見ると、全体的に「互いに理解し尊重する生徒が多くなってきている」と成果を示す一方、「努力しているが、心ない発言などはまだまだある」と問題点も指摘している。また課題として、「グループ隊形であることで他に依存している生徒が多い」との指摘もあり、教員らの創意工夫と生徒の受け止め方の間にある“教育現場の現実”を改めて考えさせられた。

・重点目標(3)「家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに（地域が同一である）小学校との一貫教育推進していく。」について

教職員による学校・家庭・地域の評価は、成果の欄を見ても「三者一体の形ができている」「地域の力は大きいと思う」など高いことがわかる。

地域住民の立場から見た一貫教育については、「ふさカリキュラム」や語り部講師の存在、「小中一

貫教育運営協議会」でのディスカッションなど、地道な努力が実を結びつつあると感じる。

学校と家庭、地域との連携については、永年続いている「布佐タイム」の功績は高く評価できる。また、学校だより発行やPTA活動の中での協力体制、さらに地域（図書）&学習ボランティアとの連携（例えば、夏休み宿題お助け隊、ふさ子ども学習室）など「布佐中学校区」として数々の実績を重ね、小学校との一貫教育についても一定に成果を収めてきたものと評価している。

- ・学習面以外では概ね本年度の重点目標を推進する行動はできていたものと理解し、評価している。
- ・まだ子どもだと思っていた生徒たちが思わぬ時に大人のようなアイデアや考え行動がとれたり、意外なところでしっかりとした様子がうかがえたりと…。たいへん頼もしく思えた場面がたくさんあった。これらは家庭や地域のご尽力もあるが、やはり教職員の平素からの小さな積み重ねによる賜物と本当に思う。
- ・教育計画自体は生徒一人ひとりが主体的な考えをもって意欲的に学ぶという姿勢を育むことを主眼とした良いものだと思う。また、学業だけでなく、一人の人間としてどうあるべきかという考え方を育むことは今の世相を鑑みてもとても大切なこととと思っているので、本年度の重点目標として据えたことはとても良かったのではないかと思う。
- ・概ねできていたかと思う。引続き関わる方に上記の様な目標・理念を浸透させて頂けるようお願いしたい。

## 2 学習指導

- ・アンケートの評価通り、学力を高める取り組みになっていたと思う。注意していただきたいのは保護者との取り組みについて、決してお客様（顧客）扱いほしないように願いたい。
- ・生徒・保護者の願いに叶っており、生徒の学習意欲、思考力を高める取り組みとなっていると思う。
- ・ただし、年1回の中間テストには、何年も前から保護者からは疑問視があったように思う。布佐中規模体制では、中間テスト・期末テスト年間2回テストは無理なのか。
- ・生徒アンケートの「楽しく授業を受けることができた」は、約80%の生徒が「そう思う」「大体そう思う」と答え、「授業に対しては真剣に取り組んでいる」も84%と高い評価。一方、問題なのは“家庭学習”で「毎日の授業の予習」「毎日の授業の復習」は38%、49%と極端に低い。家庭学習の習慣づけは小学校時代から必要があり、中学生になってからでは遅いとの指摘もあるが、それでも特に習熟度が低い生徒に対し、学校・家庭・地域の三者一体となって打開策を考えるべきであると考えます。
- ・保護者アンケートをみると、「お子様は学校へ行くことを楽しみにしている」は75%とまずまずの数値だが、「お子様は、授業が分かりやすいと言っている」が43%と低い。この現実、家庭における親子の認識の違いと情報共有が乏しいことも理由の一つと考えられるが、それでも「分かりやすい授業」を目指している教職員によるさらなる努力と創意工夫が求められていると思う。
- ・家庭学習（予習復習も含む）や読書といった面では更なる推進行動が求められるのではないかと思う。

しかし、これには生徒自身が意識改革を起こして、やる気を起こさなければ、根本的な解決にはならないと思うので、どのようにしたら生徒たちの心に変化を起こせるのかがキーワードとなってくると思う。

- ・生徒一人ひとりの学力や理解する力が違うので指導する側の教職員の苦労や負担は計り知れないものがあると感じている。現代の子どもたちの指導というのは大変に難しいことは私も職場等で感じている。教職員には、「生徒の意識改革→学力向上」となるよう、引き続きお願いしたいと思う。

- ・日々の学習活動を詳しく知る機会をあまり多く持てなかったため、総評する事は難しいが、グループワークなどを通じての意欲の向上と多様な意見や考えに触れることで思考の幅を広げようという取り組みは良いものだったと思う。また、地域ボランティアの方にも協力をあおぎながら、生徒一人ひとりの遅れを可能な限り減らすという取り組みも継続してほしいと思う。但し、読書に関する取り組みは教職員たちからも未だに不十分という回答が多かったように今後の課題になるかと思う。

- ・以前よりグループ学習については疑問を抱いていたが、学校評価を拝見し、先生方の評価が高いことに驚いている。他の意見を聞くことも大事なことだが、まずは自分で考える力を養うことが“学び”であると個人的には考えている。考察に学習形態の工夫をしていくとあったので、今後の取り組みに期待したい。

### 3 生徒指導

- ・地域の学習ボランティアに対してあまり依存し過ぎないように各担当教員がしっかり見極めながら推進してほしい。

- ・先生の言葉遣いで問題になっていたが、保護者会で校長先生自ら受け止めて説明対応し「何かあったら校長室に来てください」という言葉で保護者達は小林校長への信頼と親しみを持ったと聞いている。

- ・アンケート調査でも地域住民は、布佐中生徒の防災訓練を始め、文化祭展示、吹奏楽部演奏等積極的に地域貢献に参加し、地域住民との絆を十分強めている事を認められたと思う。生徒が参加してくれることは、地域発展にも繋がりうれしいことである。

- ・地域住民・生徒・先生たちから色々な面でこんなに意見や提案が出ることはうれしい。

- ・家の前で草取りや道を掃いていると生徒さんが立ち止まって「ありがとうございます」と挨拶をしてくれた。その思いやり、心遣いが有難い。幸せな気持ちになった。

- ・教職員による自己評価の中に、「一人ひとりのよさを認め、人間関係形成のできる生徒指導を進めている」「教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をしている」は平均3.4%と高い評価。「生徒の自主的な活動を基盤とした地域貢献活動を推進している」は同2.8%と低い。この評価結果を考察すると、教職員として一人一人の生徒と学内で向き合い、生徒の長所を育む地道な努力をしていることは伝わる一方、学外での地域貢献活動の推進&サポートする努力はイマイチという感じがする。しかし、働き方改革による職場環境の変化により、校外活動や部活などへの対応がかなり制約され、教職員として悩ましい状況に置かれていることは客観的に理解したい。

・布佐中学校の生徒たちは地域に貢献したいけれども、どのようにしたらよいかわからないと思っている生徒が多い。布佐中の生徒たちはボランティア精神が存分にあると思う。昨年の布佐中学校を会場として実施された布佐地区自治会連合会の防災訓練においても、教職員の呼びかけで多数の生徒たちがボランティアとして力を貸してくれた。このように地域や教職員がもっとアナウンスをして生徒たちが当該イベントの存在を知る機会が増えれば、名乗り出てくれる生徒が増えてくるように思う。

・布佐はお祭りがあるから、子どもの非行率が低いと言われている。このとても良い伝統を未来へと、今の子ども達が大人になってからも続いているように生徒たちのエネルギーの発散場所が地域のイベントであって良いように思う。

・防災訓練やお祭り等への参加など、地域との連携は良く図れていたと思うが、参加する生徒が限定的になるという傾向はあるように思う。これは学校側だけでなく地域の側からも生徒たちが積極的に関わりたいと思えるような取り組みを発信していくという点で至らなかったのではないかと考えられる。私自身もう少し何らかの形で貢献すべきだったと反省している。

・布佐タイムなどを通して地域の方々と交流することは子ども達にとってたいへん良いことだと思う。それをもう少しアピールすることにより、布佐中生に対する地域の方の評価も上がるのではないかな。

#### 4 その他

・小中一貫運営協議会がしばらく正式なものになる旨とうかがいましたが、校長には是非、今までの研修効果を発揮していただき、市内のモデル校になるようお願いしたいと思っている。

・小中一貫教育の推進は素晴らしいと思う。次世代のためにも頑張り応援したい。

・先生方の学習指導に対する発想・工夫・努力がうかがえる。

・野球部員が3人しかいなくても、顧問の先生の指導熱意には頭が下がる思いである。

・今年度は地域連携、小小、小中連携の推進が一步先進した年だと思う。特に小学校6年生の体験入学、布佐小と布佐南小児童の交流会実施、郷土学習の「ふさカリキュラム」の継続など、来年度に向けたステップは着実に進んでいる。

・教職員の90%が「家庭や地域と連携し、一体となって生徒を育てており、地域とともに小中一貫教育の推進を図っている。」とし、地域住民の86%も高い評価をしている。来年度も学校支援地域本部コーディネーターとして、小中一貫教育運営協議会などの機会を通し、いっそうの地域学校協働活動の推進を図っていきたい。

・小中一貫教育を布佐中区としてモデル校となり、数年が経ちた。うまくいっている部分とそうでない部分とで色々あると思う。

・教職員の働き方改革も軌道に乗りつつある中で、市・県・国が教育現場の核となる部分の実績にもっと真剣に向き合い、教職員を取り巻く関係法令をより良い方向へと改正して、教職員の質を高めて定数を増やし、その執務環境を改善することができれば、先生の人数を増やして、未来を担う子ども達に手

厚いケアをすることができれば…、結果として生徒たちへの学習面・生活面などの指導がより充実してくるサイクルになって、次の時代の我が国日本が希望のある国になって行くように思う。理想論ではあるが…。

・先にも述べてように読書に関わる取り組みはもう少し改善を図るべき点と思っている。思考力、想像力の土台となる部分なのでなおさらそう思う。

・子どもの友人関係を通じ、我孫子市内の他の学校の学力向上の全体的レベルが耳に入ってくるようになりました。小中のスムーズな移行を図るには一貫教育は良い取り組みだが、布佐中に関してはまず学力を向上させ、他校に劣らないことが大切かと思えます。厳しい課題かとは思いますが、近年私立校に進学する子どもも増えているようでもあり、地元の学校に通う子どもが減っているのは事実である。そのため、学力向上も意識した学校づくりを切に願う。